週刊 YEAR BOOK

1937
昭和12年

日録20世紀

2|17
平成10年2月17日発行
(毎週1回発行)第2巻第6号
¥560
講談社

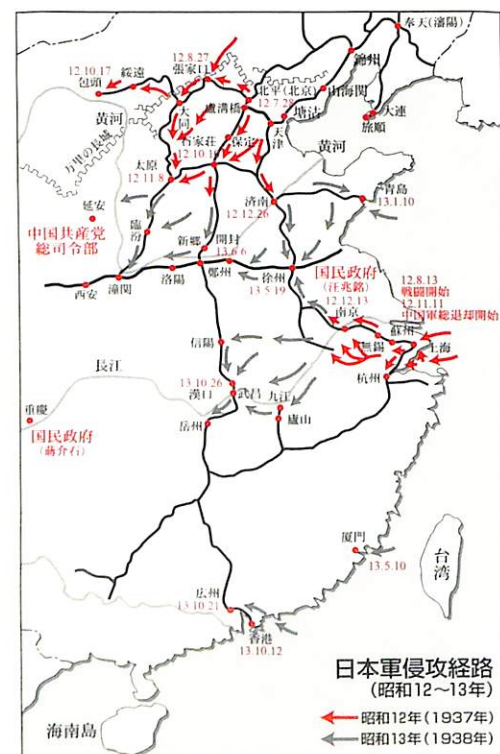
「盧溝橋事件」勃発！日中全面戦争に突入

日本軍の暴虐！「南京大虐殺」への証言

米女性飛行家 A・イアハート遭難の真相

秘蔵写真公開！超弩級戦艦「大和」着工

「陸軍のやつらは何をしでかすかわかったものではない」と山本五十六海軍次官はもらした

8年におよぶ日中全面戦争の発端！「盧溝橋事件」――“一発”の銃弾は誰が撃った

▲盧溝橋を渡る日本軍。8日未明の再発砲事件により本格的な戦闘が始まり、日本軍は永定河東岸を制圧。 毎日新聞社

日本軍侵攻経路（昭和12～13年）

← 昭和12年（1937年）

← 昭和13年（1938年）

数字は上陸または占領の年月日

マルコ・ポーロが「無比の美しさ」とたたえた盧溝橋――北平（現・北京）の西南約六キロ、永定河にかかるこの古橋で昭和一二年七月七日に鳴り響いた銃声が、日中全面戦争の発火点となった。日本軍の演習中のミスによる発砲が引き起こしたと言われるこの事件は、その後の日中史を塗り替える運命的な出来事だった。

北平近辺で両軍の小競り合いが続発

昭和一二年七月七日午後一〇時四〇分頃、盧溝橋の西北約一キロのところにある永定河東岸の竜王廟付近で突然、銃声が鳴り響いた。日本軍（「支那駐屯歩兵旅団」第一連隊第三大隊第八中隊）の清水節郎大尉（三五）が、演習中止を命令するために伝令を仮設敵側に派遣した際、いきなり三発の銃弾が第八中隊にあびせられたのである。飛来音から実弾だと判断した清水大尉が集合ラッパを吹かせると、今度は背後の竜王廟南側の堤防上から十数発の銃声が轟いた。

▶北平（現・北京）城に入城する日本軍。7月28日、「支那駐屯軍」は総攻撃を開始、8月8日には北平を占領した。「国際写真情報」国際フォト

◎表紙 艤装中の戦艦「大和」。第3砲塔右砲の作動試験中らしく、砲身を最大仰角に上げている。 呉市企画部海事博物館推進室提供

「陸軍のやつらは何をしでかすかわかったものではない」と山本五十六海軍次官はもらした

8年におよぶ日中全面戦争の発端！「盧溝橋事件」——〝一発〟の銃弾は誰が撃った

さらに日本軍を緊迫させたのが、集合後の「初年兵一人が行方不明」という報告である。午後一一時、清水大尉から緊急連絡を受けた大隊長の一木清直少佐は、北平（現・北京）の連隊本部にいる連隊長の牟田口廉也大佐（四八）の承認を得て、現地へ急行した。

こうして翌八日午前三時すぎ、中国軍が駐留する宛平県城東方の一文字山に日本軍の大隊主力が集結するのだが、実は、行方不明の初年兵は用便のため隊伍を離れただけで、「行方不明兵無事、何らの損害もなし」という連絡も受けていた。戦争に発展する状況にはなかったのだ。

それを一変させたのが、八日午前三時二〇分頃の「敵に撃たれたら撃て！」という牟田口大佐の攻撃命令。一木少佐から「再度、竜王廟方面より『三発の発砲』を受けた」との報告を受けての命令だった。午前五時三〇分、こうして日中両軍は本格的な戦争に入ることになる。

満州（中国東北部）を制圧し、昭和七年に「満州国」を建国した日本は、その後も侵略の手をゆるめなかった。一〇年六月には国民党政府との間に「梅津・何応欽協定」などを結び、チャハル省と河北省から中国軍を駆逐。一一月には河北に親日派の殷汝耕を主席とする傀儡政権「冀東防共自治委員会」を作った。華北五省（河北、山東、山西、チャハル、綏遠）を中国から切り離すこの〝華北分離政策〟は、第二の「満州国」計画だった。

次に翌一一年四月、陸軍は〝在留邦人の保護〟を名目に、「支那駐屯軍」の兵員を一七七一人から一気に五七七四人までふやし、中国の猛反発を招く。その結果、中国側も抗日色の強い第二九軍を盧溝橋に近い宛平県城に駐屯させ、〝事件の前ぶれ〟ともいえる小競り合いが北平南西部の豊台などで続発していた。

諸説が飛びかう運命の銃声の謎

こうした状況下で起きた「盧溝橋事件」だっただけに、第一報を受けた山本五十六海軍次官（五三）は「陸軍のやつらは何をしでかすかわかったものではない。油断がならんよ」ともらし、六月に首相に就任していた近衛文麿（四五）は、「陸軍の計画的行動ではなかろうな」とつぶやいたという。

実際のところ、「七日夜に最初に発砲したのは誰か」をめぐって憶測が飛びかい、〝日中戦争の謎〟と言われることになる。たとえば、「日本軍の計画的陰謀説」や、蒋介石政府との内戦に追いつめられた「中国共産党の謀略説」などだ。

それに対し、「事件は功名心に駆られた日本人指揮官が誘発したもの」と分析するのは、中国戦線の従軍経験者で『盧溝橋事件——嘘と真実』を出版した戦史研究家の肥沼茂氏である。

「そもそも七日夜の日本軍の演習は、牟田口大佐が上官に自分を売りこむためにやらせたソ連戦想定の最新演習でした。ところが、計画がずさんで部下への指示が徹底してなかったために、仮設敵部隊が演習中止を伝えに来た伝令兵を見て演習開始と誤解し、正面にあった中国軍陣地に向かって空砲を猛射。それに驚いた中国兵の威嚇射撃を誘発したのです」

つまり、「最初の〝実弾〟を撃ったのは中国兵だが、それを誘発したのは日本軍のずさんな演習」というわけだ。さらに重要なのが、翌八日早朝に始まった日中両軍による戦闘のきっかけが、〝中国側の攻撃への応戦〟でなく、〝日本軍が仕掛けた〟疑いがあることである。

愛知大学の江口圭一教授（日本現代史）は指摘する。

「日本人指揮官が、面目や威信を保つために一方的に仕掛けたのは明らかです。これは、『攻撃しに行って、一人も敵がおらんというと面目がない。逃げ込まれぬ先に証拠を握るという点からいっても早くやらなければだめだと思って、（一文字）山に駆け上がるなり、歩兵砲隊長に目標は竜王廟だ、あの方面に向けて攻撃しろ（と射撃命令した）……』と記された一木の回顧談でもわかる。中国軍にすれば、戦闘態勢で迫ってくる日本兵に射撃を加えるのは当然の対応でしょう。そういう意味では、偶発的に起きた七日夜の銃撃より、翌八日朝の戦闘こそが『盧溝橋事件』と言えるのかもしれません」

とはいえ、事件に関するどの説にも決定的証拠はなく、今も真相は〝藪の中〟。唯一言えるのは、「満州事変」などが象徴するように、当時の国内には、関東軍などの〝現地軍〟がでっちあげた既成事実を軍中央や政府が事後承諾していく風潮が蔓延していたことである。だからこそ、事件後、陸軍中央では石原莞爾第一作戦部長らの〝戦線不拡大派〟が武藤章第三作戦課長らの〝拡大派〟に破れ、不拡大方針を表明していた近衛首相も、決定をくつがえして七月一一日に華北派兵を決定したのだった。

一方の中国側も、一九日に蒋介石政府主席が、全国民に守土抗戦を訴える「最後の関頭」演説を敢行。「盧溝橋事件」は悲劇的な結末へところがり始める。

事件から三週間後の七月二八日、「支那駐屯軍」はついに総攻撃を開始。日本は、八年におよぶ全面戦争の泥沼へ一歩を踏み出したのである。

▶7月29日、約1万の中国軍が天津で攻撃開始。兵力不足の日本軍守備隊は、第79連隊の5個大隊を主力として懸命に防戦した。写真は天津駅付近の戦闘。 毎日新聞社

▲7月26日には北平・広安門で、日中両軍が衝突した。写真は北平に向かう牟田口連隊。 毎日新聞社

蒋介石の「最後の関頭」演説

「盧溝橋事件」の勃発から10日後に「最後の関頭」演説を廬山で行った蒋介石国民党政府主席は、1937年7月19日午後6時から演説の内容をラジオで公表した。

「もし盧溝橋が（日本の）圧迫によって強制的に占領されれば、わが500年の古都、北方の政治文化の中心で軍事上の重鎮である北平が、第二の奉天にならぬと断言できるだろうか。今日の北平が、もしかつての奉天になれば、今日の冀察地方（河北省、チャハル省）は、かつての東北4省（満州）になるであろう。北平が奉天になるなら、南京が北平にならないとは、誰が保証できるだろうか。ゆえに『盧溝橋事件』の推移は全国的問題であり、その収拾の能否は最後の関頭の限界である」

そして、蒋介石は「いかなる解決も、中国の主権と領土保全を侵害しない」「（抗日色の強い）第29軍の現駐屯地に関する（日本の）要求は受け入れない」を含めた4点を〝事件解決の条件〟として宣言した。

この「最後の関頭」演説は、中国民衆の熱狂的な歓喜によって迎えられ、「第2次国共合作」の導火線にもなったのである。

◀廬山での各界指導者会議で、声明を出した蒋介石。 歴史写真

毎日新聞社

▲7月8日、銀座で「盧溝橋事件」を伝える号外がまかれた。

厳重な箝口令が敷かれた国家プロジェクト
延べ1500万人動員、建造費1億6300万円
超弩級の戦艦「大和」着工！

▶公試運転で全力航走中の「大和」。豊後水道・宿毛湾沖で昭和16年10月30日に撮影。11月後半からは、銃砲の公試が始まり、12月7日には、周防灘で主砲の公試が行われた。
呉市企画部海事博物館推進室提供（2点とも）

昭和一二年一一月四日、四六チセン砲を搭載する超弩級艦・戦艦「大和」の建造が秘密裡に始まった。竣工は一六年一二月。その後連合艦隊の旗艦として威容を誇ったが、昭和二〇年四月七日、持てる力を発揮しえないまま、アメリカ軍機の猛爆と魚雷を受け悲劇的最期をとげた。その「大和」の雄姿を伝える希少な写真を、本文記事とともに特別公開する。

海軍内部の対米主戦派が世界無比の戦艦を要求！

昭和一二年七月に入ると、広島の呉海軍工廠は異様な雰囲気に包まれた。造船ドックを一メートル掘り下げる、一〇〇トン走行クレーンを増設し、船殻（船体）工場の能力を増大する……。これまでにない建造設備の拡充に、工員たちからは「とてつもなく大きなものを造るらしい」という噂が流れていた。しかし、一方では機密保持のため、工事関係者には箝口令が敷かれ、「秘密厳守」の宣誓書を書かせるなど徹底した防諜措置が講じられた。

そして一一月四日、日本海軍の威信をかけた戦艦「大和」の起工式が行われた。ドック中央の台座には、呉鎮守府司令長官・加藤隆義中将、呉工廠長・豊田貞次郎中将をはじめ、牧野茂設計主任、西島亮二（三五）ら船殻関係の担当責任者が勢ぞろいし、加藤司令長官の挨拶、神官によるお祓いと祝詞の朗読が終わると、鋼柱（垂直竜骨）の穴に差しこまれた直径四〇ミリ、長さ二〇〇ミリの鋲の頭を軽くたたく。こうして緊張した空気が張りつめる中、儀式は終了した。

起工式後の最初の作業は、艦艇の原寸どおりの図面を引くことである。艦の底部にあたる造船現図場は長さ一五〇メートル、幅二五メートル。現図工が線を引き、実物の木型をとり、それを工場に下ろして鋼板を加工し、船体を組み立てていった。

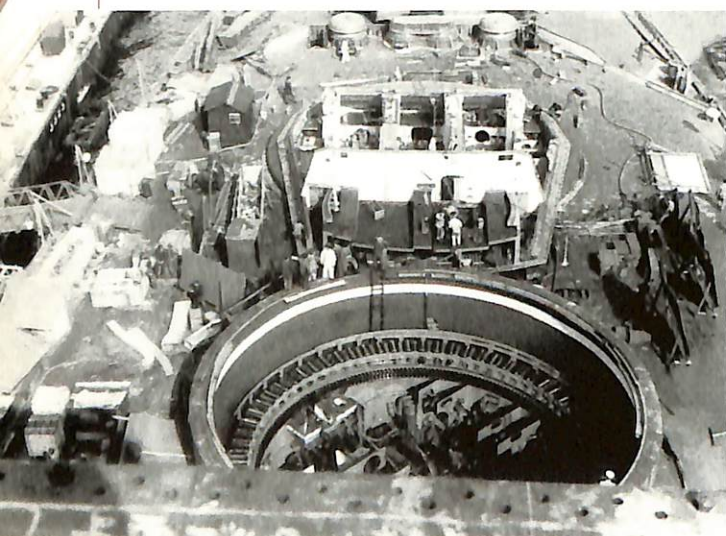
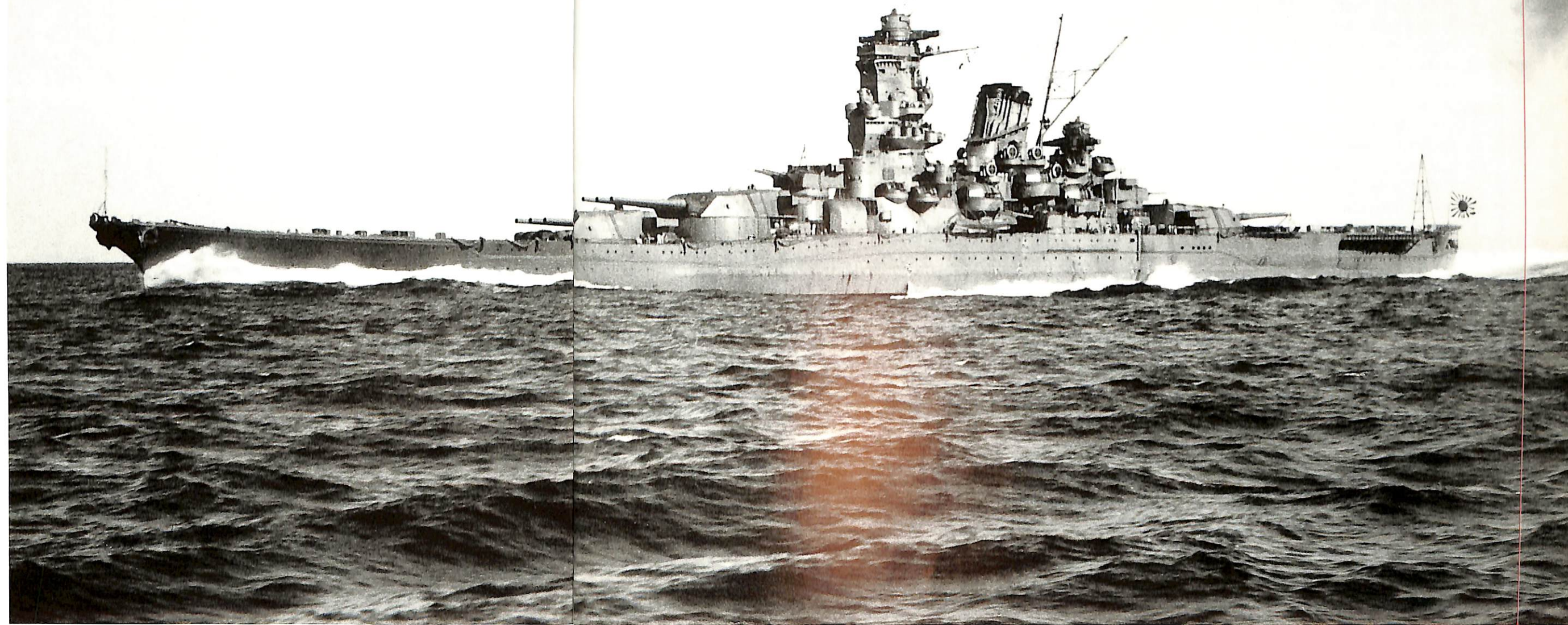
工廠内は活気に満ち、工員たちは絞鋲や電気溶接などの難作業を次々に克服。中でも砲身には名人芸が要求され、砲身鋼材を大型旋盤で削る作業は一ミリたりとも設計図との誤差が許されなかった。

「大和」建造に要した延べ人員は一五〇万人以上、打たれた鋲は六一五万三〇〇〇本にもおよぶ。建造費も約一億六三〇〇万円と甚大なものであった。「大和」建造は、まさしく超巨大な国家プロジェクトだったのである。

「大和」建造の背景には、海軍内部の対米主戦論者・加藤寛治大将ら強硬派の強い要求があった。昭和五年に締結されたロンドン海軍軍縮条約による主力艦建造休止期間が切れる昭和一一年一二月末をめどに、世界最強の超弩級艦建造構想が提起されていたのである。

海軍軍令部から艦政本部に対し、「四六チセン砲が搭載できる軍艦の建造を研究してほしい」との具体的な要求があったのは、昭和九年一〇月のことであった。

いよいよ始動した巨大戦艦には「A—一四〇」という基本計画番号がつけられ、艦政本部第四部の福田啓二・基本計画主任を中心に造船少佐の松本喜太郎、牧野茂と文官を含めた八人の、徹夜に次ぐ徹夜の設計作業が始まった。

基本設計作業は計算機との闘いであった。船体強度、造波抵抗、防禦装置、速力、主砲使用時のショックなど、あらゆる要素が数値化され、船体の強度やバランスを測定する複雑きわまるものだった。基本計画に要した時間は一年八ヵ月。

◀夜戦艦橋付近から見た、第1砲塔旋回盤の積みこみ作業。「大和」の艤装は、画期的な方式で進められた。昭和15年6月3日撮影。

15メートル測距儀
150センチ探照灯
25ミリ3連装機銃
副砲15.5センチ3連装砲塔
主砲46センチ3連装砲塔
25ミリ単装機銃
副砲15.5センチ3連装砲塔
主砲46センチ3連装砲塔
25ミリ単装機銃
クレーン
カタパルト
15メートル測距儀
25ミリ3連装機銃
12.7センチ高角砲
25ミリ3連装機銃
25ミリ単装機銃
主舵
副舵

戦艦大和船外側面図

〔特別企画〕秘蔵写真一挙公開！ 戦艦「大和」の試運転から最期まで

その間、二三回もの変更がなされ、昭和一一年三月、ようやく最終案がまとまった。それは全長二六三㍍、幅三八・九㍍、排水量六万八二〇〇㌧、速力二七㌩、一五万馬力の軸馬力タービン、そして主砲（四六㌢）、三連装砲塔三基（九門）、副砲、高角砲を装備する、まさに「不沈艦」であった。

〝軍艦造りの名人〟西島亮二の真骨頂

「大和」の建造にとって船殻主任・西島亮二の存在は大きかった。

昭和一二年一二月一日の人事異動で船殻主任になった西島は、「工員が重いものをかつぐ必要はない。鋲打ちは本業である鋲を打つ時だけ汗を流せ。無駄な汗はいっさい流すな」と徹底した合理主義を貫き、能率向上の方策として早期艤装、実物大模型の採用、溶接の使用など、画期的な生産方式をどんどん取り入れていった。

早期艤装は、あらかじめ工事のできるものは甲板工場なりほかの工場で造り、

現在遺されている戦艦「大和」の写真は、数少ない。そうした艦艇の貴重な写真や、造船技術の資料を集めて一般公開する「海事博物館」（仮称）の建設が、海軍工廠が設置されていた呉市の手で進められている。本誌は、同館推進室の協力をあおぎ、海上特攻として悲壮な最期をとげた超弩級艦「大和」の秘蔵写真を収集、一挙公開する。

◀建造から五六年ぶりに発見された、「大和」の電気・通信関係の設計図。石川島播磨重工業の倉庫に眠っていた。

中国新聞社

▲時化模様の海上を高速航行。昭和16年10月20日、宿毛沖。

荒波ももののともせず、全力公試運転中の「大和」

▲速力約12ノットで航走中。昭和16年10月26日。

▲右下の写真と同日撮影。やはり艦尾に軍艦旗が見えない。

▲面舵に回頭し、宿毛沖標柱間に入る。昭和16年10月30日。

▲上の写真と同日、軍艦旗を掲揚し宿毛湾外を全力航走。

トラック島に碇泊する「大和」と「武蔵」

▼右手前が「武蔵」、左手奥が「大和」。昭和18年、トラック島に入港した駆逐艦「潮」から撮影。 呉市企画部海事博物館推進室提供（6点とも）

昭和20年4月5日、連合艦隊司令部から「大和」に出撃命令下る

▲4月6日午後3時20分、「大和」以下海上特攻隊10隻は、対潜警戒隊3隻の援護を受け山口県徳山沖を出撃、豊後水道を南下した。 文殊社提供

共同通信社

◀「大和」は最大速度で転舵して、対空射撃で対抗。四月七日午後二時一〇分までに、四次にわたる攻撃を受けた。

▲4月7日午前8時すぎ、米軍哨戒機が艦隊を捕え、12時32分、戦闘機ほか260機が襲来。 文殊社提供

▲4月7日午後2時23分、左舷側に傾斜して艦底が露出。誘爆して沈没。 文殊社提供

昭和60年、40年ぶりに艦体が確認された「大和」

共同通信社

◀八月三日、鹿児島の西南西約二〇〇㌔の海底で船首部を発見。

呉市企画部海事博物館推進室 〒737 広島県呉市幸町3番2号 ☎0823(25)3017

▲昭和15年8月8日に行われた進水式。ドックの囲いの中には、進水係のほか、ごく限られた関係者しか入れなかった。　西島江依子提供（2点とも）

それを手順どおり取り付ける方法だが、西島の真骨頂は〝西島カーブ〟と呼ばれた効率化をはかるための工数管理にあった。

「工数管理とは一人の工員の作業量と作業時間を各工程ごとに割り出し、トータルな工期と工費を綿密に計算していくもので、きわめて合理的でシステマチックなものです。『大和』の船体建造に要した総工数は、民間で一番優れた三菱重工長崎造船所が担当した『武蔵』のほぼ二分の一、これは驚異的なことです。両艦は同じ図面から建造されましたから、この差はまさに〝軍艦造りの名人〟西島の力によるところが大きかったのです」

こう語るのは『戦艦大和誕生』（講談社）の著者・前間孝則氏である。

進水式、その後の艤装工事、予行運転を終え、「大和」が竣工したのは、昭和一六年一二月一六日。日本軍がハワイの真珠湾を空襲し日米開戦の火ぶたが切られた八日後のことであった。

「大和」が連合艦隊に編入され、旗艦となったのは翌一七年二月一二日。その後太平洋での作戦任務につき、沖縄救護のため、山口県徳山沖を出撃したのが昭和二〇年四月六日午後三時二〇分。そして翌四月七日午後一二時半すぎ、佐多岬沖を通過するやアメリカ軍機の襲撃を受け、ついに四六センチ砲の威力を発揮しえないまま、爆弾六発、魚雷一〇本をあび、満身創痍となった巨体を海底深く沈めたのである。

乗組員三三三二人のうち、海上の漂流者となったのは五、六〇〇人、幸運にも救出されたものは、昭和二七年『戦艦大和ノ最期』（創元社）を著し、その壮絶な現場を再現した吉田満（当時・少尉）ら二六九人にすぎなかった。

国家の威信をかけ、建造技術の粋を集めた「大和」は非業の最期をとげた。はたして「大和」は、「無用の長物」だったのか。基本計画主任の福田啓二は、「文藝春秋」昭和三〇年一一月号で次のように記した。

「技術というものは一日にして成るものではない。突飛な飛躍的な進歩というものはあり得ないのである。『大和』はそのいい例で、もし我々の先輩の遺産がなかったら、かれはこの世に生まれなかったかもしれない。不沈艦は沈んだ。しかし、その技術は亡びてはならないし、又亡ぼさせてはならないのである」

まさに福田が指摘したとおりであった。戦後の日本は、「大和」でつちかった建造技術はもちろん、生産管理や現場モラルの高さをいかんなく発揮し、造船大国として世界をリードしたのである。

▶西島亮二は、岡山県浅口郡生まれ。九州帝大造船学科を卒業し、海軍造船技術士官となった。

女たちの肖像

『綴方教室』二〇万部！〝天才少女〟豊田正子の貧しくも明るい生活感

稲葉真弓

不況風が吹き荒れる世相に加え、軍部の言論弾圧が厳しくなったこの年、小学校教諭、大木顕一郎と清水幸治が編んだ『綴方教室』が中央公論社から刊行され、二〇万部を超えるベストセラーになった。「赤い鳥」の主宰者、鈴木三重吉が提唱した綴方運動が注目をあびていたこともあり、この本の中の作文を書いた豊田正子（一四）は〝綴方の天才少女〟と騒がれ、新聞、雑誌のインタビューにひっぱりだこ。レコードの吹きこみ、山本安英主演で舞台化、高峰秀子主演で映画になるなど話題を呼んだ。

『綴方教室』は、彼女が小学校四年生から五年生の時にかけて、大木の指導を受けて書いたもので、三銭のウズラ豆を幼い弟ら三人と奪いあって食べた話や、キュウリの漬物だけで昼御飯を食べた話など、下町に住む少女が、貧しさにめげず、明るく力強く生きていく姿が二六編の作文として収録されている。

しかも最初は七行しか書けなかった少女が、二年の間におとな顔負けの作文を書くようになった、その指導過程が詳細に併録されていたことから、後の生活綴方運動の「お手本」にもなった。

が、この本が話題になった時、当の正子はレース工場で女子工員として一日一〇時間労働に従事、自分のことがマスコミで報道されていることを知ったのも人づて、出版された『綴方教室』さえ一冊も手元にない状態だった。印税もうやむやになっていたが、彼女は大木の勧めで、工場勤めのかたわらなおも生活記録を書き続け、昭和一四年『続綴方教室』、一六年『粘土のお面』を刊行、豊田正子の名は全国に知られていった。

大正一一年東京生まれの彼女は、五人兄弟の長女。父親は定職のないブリキ職人だった。作文にはそうした家族の日常が叙事詩風に描かれているが、戦後の彼女の日々もけっして順調とは言えなかった。長いスランプ、結婚生活の破綻、結核の療養……。再起は『綴方教室』から二〇年以上経た三四年、『芽ばえ』という長編小説によってだった。この頃彼女はプロレタリア作家の江馬修と生活、中国文化大革命のルポルタージュを手がけるなど新境地も開いた。

一方『綴方教室』は、五三年に九州の劇団によって上演され、平成七年には『新編綴方教室』として岩波文庫に収録。時代を超えた希有な作品として読み継がれている。

毎日新聞社

▲ラジオで自作を朗読する豊田正子。

勝者・敗者

景浦、山下ら相手に完封！「第一回東西対抗」一回戦で沢村栄治が見せた〝晴れ姿〟

阿部珠樹

この年の秋も深まった一一月二〇日、甲子園球場では、「第一回日本職業野球全スター東西対抗」の一回戦が行われた。今のプロ野球オールスター戦にあたる試合である。

東軍は、春のリーグ戦に優勝した巨人から最も多くの選手が選ばれ、一方の西軍は、秋のリーグ戦を制したタイガースの選手が主力だった。

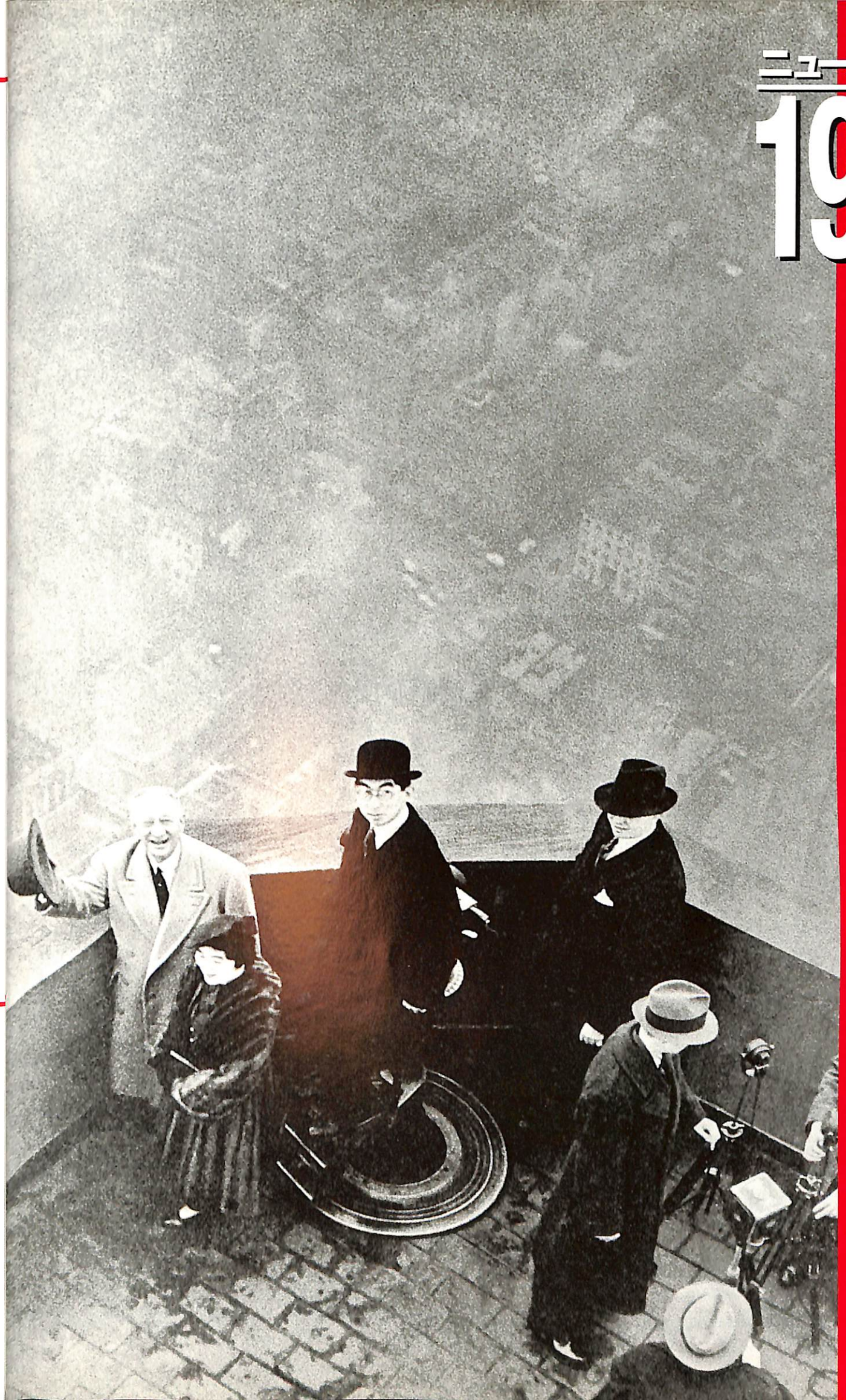
戦前の予想は、秋のリーグ戦で二位の巨人に九ゲームの大差をつけたタイガース勢中心の西軍有利と見られていたが、試合が始まると、予想をくつがえし、東軍が一方的に押しまくった。西軍先発の金鯱の古谷倉之助、リリーフした同じく金鯱の鈴木鶴雄、タイガースの松木謙治郎、若林忠志に次々にヒットをあびせ、一六安打で一四点をたたき出した。

投げては先発した巨人のエース・沢村栄治（二〇）が、タイガースの主砲としてリーグ戦で沢村と死闘を繰り広げた景浦将、和製ベーブ・ルースの異名をとる阪急の山下実らの強打者相手に得意のホップする快速球、大きく落ちこむ「懸河のごとき」ドロップをビシビシ決め、六安打、三振七で完封、みごとに第一回の記念の試合をものにした。

思えばこの試合が、伝説の名投手、沢村の最後の晴れ姿だったのかもしれない。

昭和九年、来日したベーブ・ルースら大リーグのオールスターを相手に快投を演じ、日本はおろかアメリカにまで「スクールボーイ・サワムラ」としてその名を轟かせた沢村は、この試合の後、最初の出征をする。沢村が球界に復帰するのは三年後の昭和一五年。日米開戦の前年である。この時、すでに彼の肩は軍隊生活に痛めつけられており、往年の快速球は見る影もなかった。

沢村の出征と入れ違いに、翌昭和一三年には、熊本工業の川上哲治、松山商業の千葉茂などの有望な若手が職業野球の門をたたく。そうしてみると、この第一回オールスターは、戦前のプロ野球の大きな分岐点になった試合と言えるかもしれない。

▶沢村は、この年の春期リーグで二四勝をあげ最高殊勲選手に。秋期ではタイガースの「打倒沢村作戦」の前に、九勝と振るわなかった。

毎日新聞社

▲日英親善につとめる吉田茂(1月27日)前年英大使に着任。この日ロンドンの日本新旧絵画展を令嬢と見学した。前年11月の日独防共協定調印で不安視される両国の緊密化に懸命だった。

◀横山大観が古希(1月20日)日本美術院の同人が東京・築地の料亭「新喜楽」で数え年70歳を祝福。4月には第1回文化勲章も受章、恩師・岡倉天心の遺志を継ぐ日本画革新に邁進した。

毎日新聞社

▶浜田国松と寺内寿一陸相の「腹切り問答」(1月21日)衆院本会議で浜田議員(右)は軍部の政治介入を鋭く批判。寺内陸相(左)が軍への侮辱と応じたため、「速記録に侮辱の言あれば潔く割腹する、なければ君割腹せよ」と迫り議会は混乱。軍と政党の対立は深まり、広田内閣は崩壊する。

▲◀名古屋城の金鯱の鱗盗難(1月4日)築城調査用の足場が利用され、鱗58枚分の金の板が盗まれた。大凧を操る伝説の怪盗・柿ノ木金助の再来と騒がれたが、犯人は40歳、27日大阪で逮捕された。

▶宇垣一成、組閣断念(1月29日)広田首相の後任として25日に拝命、軍と政党の対立を解消する大役を担ったが、陸軍が陸相推薦を拒否したため、組閣を辞退した。

▶トロツキー夫妻、メキシコ亡命(1月)政敵スターリンの執拗な圧力で滞在中のノルウェーを追われたが、左翼画家リベラ(右端)が援助の手を差しのべた。しかし1940年、刺客により暗殺、安住の地とはならなかった。

昭和12年1月

1(金)●日本放送協会、欧州・南米向け放送開始。●山本有三「路傍の石」、「朝日新聞」で連載開始。

2(土)●ブラジルのナザレス鉄道会社が、南米で初めて日本から鉄道資材を購入。

3(日)●在米日本人・ジャック白井ら米人義勇隊、人民戦線政府支援のためスペインへ入国。

4(月)●名古屋城天守閣の金鯱の鱗五八枚分が盗難に。

5(火)●前年末に満州(中国東北部)の陸軍刑務所脱獄の百余人のうち五三人が逮捕、銃殺される。

6(水)●国鉄が大幅黒字、全国で駅舎新改築と新聞に。

7(木)●大蔵省、広く人材登用のため試験実施と発表。

8(金)●大蔵省、輸入為替許可制を実施。管理を強化。

9(土)●西安で共産党主導の抗日デモ。一五万人参加。

10(日)●「京都日日新聞」の主幹・徳光伊助、ソ連大使館への情報提供の疑いで検挙される。

11(月)●綿糸などの大阪三品市場、為替管理強化による価格暴騰で清算取り引きの新規売買を停止。

12(火)●北海道積丹沖で石炭船沈没。三三人死亡・不明。

13(水)●米太平洋岸で日本の生花が大流行、と新聞に。

14(木)●軍需景気に沸く工場で小学校卒業生がひっぱりだこのため、東京府と市が対策を協議。

15(金)●日米綿業会議開始(24日妥結。対米輸出制限)。

16(土)●商工省、一九四〇年日本万博の開催誘致決定。

17(日)●北海道大雪山にスキー列車利用のホテル開業。

18(月)●資生堂、顧客組織「花椿会」発足を発表。●生活必需品の価格は前年比一割、六年の三割以上の暴騰と、東京商工会議所が発表。

19(火)●陸軍省、「二・二六事件」の下士官らの判決発表。禁固一五人、罰金二人、無罪一三人。●ハーバード大、東洋語学部の新設を決める。

20(水)●女性にグライダー熱、クラブも設置、と新聞に。

21(木)●政友会の浜田国松、軍の政治介入を批判。侮辱との陸相発言に「侮辱あれば割腹」と追及。

22(金)●「オイコラ警官」再教育の道場開設と新聞に。

23(土)●広田内閣、軍部と政党の対立から総辞職。

24(日)●全日本婦選大会開催。最後の大会となる。

25(月)●宇垣一成に組閣命令(29日陸軍の反対で断念)。

26(火)●国民禁酒同盟、女給の建国祭参加不可を決議。

27(水)●東京市、全国初の下水道使用料徴収を決定。

28(木)●東邦電力の松永安左エ門、座談会で官吏に対し失言があったと新聞に謝罪広告を掲載。

29(金)●後任首相は平沼騏一郎固辞のため林銑十郎に。

30(土)●陸軍、「ファッショは企図せず」と釈明の声明。

31(日)●ケソン比大統領と軍事顧問マッカーサー来日。

ニュース・ファイル

1937

フォト+日録で再現する365日

七月七日、盧溝橋事件が勃発、近衛内閣は、事件不拡大を掲げたが軍に押されて容認。八月には第二次「上海事変」が起こり戦線は一挙に拡大、政府は「国民精神総動員」を発して戦時体制整備に躍起となった。一二月、南京占領の報に国民は旗と提灯でこたえたが……。

◀秩父宮ご夫妻、摩天楼からニューヨークを眺望(4月6日)5月12日の英ジョージ6世戴冠式に天皇名代として出席の途次、世界一の高層建築エンパイア・ステート・ビルを観光、地上102階に登った。(国際写真新聞)

▲完成間近の御堂筋(2月)阪急梅田駅前から難波まで約4キロ、繁華街キタとミナミを結ぶ大阪の大動脈で5月に全通。幅約44メートル、植樹帯を2本新設するモダンな街路となった。

毎日新聞社

▲「死なう団」切腹はかる(2月17日)宮城前広場などで「死のう、死のう」と叫びながら、盟主・江川桜堂(32)ら5人が切腹を試みた。日蓮の「不惜身命」を信奉する15人の宗教団体で、執拗な弾圧に対する抗議だった。

毎日新聞社

▼徴兵合格基準引き下げ(2月19日)兵役法施行令改正で身長を5センチ下げ、150センチ以上に。前年、南北並進論を国是としたため大幅な軍拡が必要だった。写真は長野県の徴兵検査。

▲探偵小説に初の直木賞(2月12日)先鞭をつけたのは木々高太郎「人生の阿呆」。木々の本名は林髞、慶大医学部助教授で大脳生理学者。39歳。写真は受賞後のパーティーで挨拶する木々。

▲衆院予算総会が秘密会に(2月19日)「軍機」として報道陣を排し、陸・海両相が国家予算の5割に達した国防費増加の理由や国防計画を説明。写真は総会の直前、華北の兵配備図を見る閣僚たち。

熊谷元一

◀電気バス登場(2月3日)市民に「青バス」の名で親しまれた大阪乗合自動車が、ガソリン車の代用として開発。蓄電池を搭載、22人乗り。軍拡により石油需要が増大し、代替燃料が求められていた。

朝日新聞社

昭和12年2月

1(月)●一階がコンコースの国鉄名古屋駅舎開業。
2(火)●林銑十郎内閣、成立。政党を排した軍官内閣。
3(水)●政府、前内閣提出予算案と全法案撤回を決定。
4(木)●原節子主演の日独合作映画「新しき土」封切。
●重要政策にかかわる国策研究会、初の総会。
5(金)●鉄価暴騰に目をつけ、鉄製交通標識一五本を盗み売りさばいていた男が東京で逮捕される。
6(土)●カヌー日本漕艇協会、隅田川でカヌー初公開。
7(日)●東京放送局、ラジオ劇「真実一路」を原作者・山本有三からの無断放送との抗議で中止決定。
8(月)●政府、「祭政一致」など五大政綱を発表。
●文部省、天然記念物の秋田犬・紀州犬など優良な純日本犬にメダルを授与と通牒。
9(火)●日銀総裁、深井英五の後任に池田成彬が就任。
10(水)●藤山一郎の歌「青い背広で」発売。
11(木)●全国刑務所で受刑者五万人が紀元節奉祝斉唱。
12(金)●浜口陽三ら、自由美術家協会を結成。
13(土)●仏首相ブルム、人民戦線綱領の休止を声明。
●満州の安東(丹東)で劇場火災。七五〇人焼死。
14(日)●日本金属学会発足。会長・本多光太郎。
15(月)●日本製鉄八幡製鉄所、日本初の一〇〇〇トン高炉、洞岡第三溶鉱炉に火入れ。
16(火)●一月の怠業・罷業が前年比四割増。諸物価高騰のため賃上げ要求が目立つ、と新聞に。
●米のカロザース、ナイロンの基本特許を取得。
17(水)●「死なう団」団員、議事堂前・宮城前広場など五カ所で切腹をはかる(死なう団事件)。
18(木)●「蒼氓」封切。石川達三の芥川賞作品を映画化。
19(金)●兵役法施行令改正。徴兵検査の身長基準を五センチ引き下げ(一メートル五〇センチ)、兵力増大はかる。
20(土)●帝人事件公判が二〇〇回に。世界最多を記録。
21(日)●宅扱い(配達つき)貨物専用列車の運行開始。
22(月)●世界的鉄鋼不足で屑鉄相場が新高値を記録。
●東京株式市場、活況呈す軍需関連株中心に売買高一五二万八〇〇〇株と開所以来の記録。
23(火)●東京五輪会場決定。主会場は駒沢に新設。
24(水)●リトアニア、エストニアに日本公使館開設。
25(木)●東京・清澄公園で米からのハナミズキ寄贈式。
26(金)●大阪南地芸妓組合の芸者六〇人、組合承認など要求し大和信貴山に籠城(3月6日解決)。
●朝鮮の新興教団「白白教」教祖、女性信徒ら三八一人惨殺で逮捕(翌日逃走し、3月自殺)。
27(土)●日本郵船の船員、東西呼応して争議に突入。
28(日)●YWCAの有職婦人母子ホーム開設。

▶大阪帝大、日本初のサイクロトロン完成(3月30日)原子核の構造・性質を研究する円型の粒子加速器を、理研出身の菊池正士教授(34、右)が開発。4月には理研の仁科研究室も完成させるなど、核物理学は世界最先端を進んだ。

朝日新聞社

◀前畑秀子さん結婚(3月3日)前年、ベルリン五輪200メートル平泳ぎで、日本全国を興奮させた金メダリスト(22)が熱田神宮で挙式。花婿は名古屋医大外科副手の兵藤正彦氏(29)。

毎日新聞社

▶対外不平等条約の残骸「永代借地制度」解消(3月25日)江戸末期の安政年間、列国に対して治外法権廃止に代わって与えた永代借地権を80年ぶりに撤廃した。写真は公文交換を行う佐藤尚武外相(左)とグルー米国大使(右)。

毎日新聞社

◀日本、8年ぶりデ杯米国ゾーン出場(3月25日)男子テニス国別対抗戦で上位リーグ出場をはたしたが、4シングルス、1ダブルスの5戦は全敗、ワールドグループ出場はならなかった。写真は東京駅で見送りにこたえる左から中野文照、山岸二郎、西村秀雄の各選手。

▶国際女優・原節子(3月26日)ヒロインを演じた日独合作映画「新しき土」(独題「武士の娘」)が、ナチスお墨つきでドイツ全土で公開され、超人気スターとなった。写真は宣伝のためベルリンを訪れた原(16)。左は監督のA・ファンク。

毎日新聞社

◀日本初のプラネタリウム登場(3月13日)この日開館の大阪・四ツ橋の市立電気科学館3階にある300人収容の天象館に設置。47万円の独カールツァイス社製。

朝日新聞社

昭和12年3月

1(月)●水上競技連盟、規定改正しバタフライを承認。
2(火)●大蔵省、衆院予算分会での陸軍予算への質問に対し国防機密を理由に説明拒否。
3(水)●「死なう団」盟主・江川桜堂、潜行半月で出頭。
4(木)●四歳の中村メイコが映画初出演、「江戸っ子健ちゃん」でエノケンの息子と共演、と新聞に。
5(金)●日鉄八幡製鉄所、好況背景に賃金を一割加増。
6(土)●政府、製鉄事業法案を決定。鉄鋼の国家管理。
7(日)●朝鮮総督府が議会・官庁での朝鮮語禁止と日本語使用を厳命、と「京城日報」が報道。
8(月)●衆院、海軍補充計画予算可決。五カ年で戦艦「大和」「武蔵」ほか六六隻建造と航空力強化。
9(火)●福岡市の書店組合、万引き防止などで本の立ち読み謝絶を申し合わす(全国で初めて)。
10(水)●東大寺の国宝阿弥陀如来像の盗難発見。
11(木)●F・ロゼー主演の仏映画「女だけの都」封切。
●仙台、青森、札幌飛行場の設置が決まる。
12(金)●ショパン・ピアノ・コンクールに日本人初参加の原智恵子、一五位に入賞。
13(土)●大阪市立電気科学館開館。日本初のプラネタリウムと純国産のテレビ電話を設置。
14(日)●名古屋で汎太平洋平和博覧会開幕。
15(月)●シカゴで世界初の血液銀行が開業。
16(火)●静岡県持越金山の火災で五八人がガス中毒死。
17(水)●仏でファッショ団体の解散要求しゼネスト。
18(木)●スペイン政府軍、グアダラハラで伊軍を撃退。
19(金)●姫路城内で映画「大坂夏の陣」(衣笠貞之助監督)の撮影中に火薬が爆発。七人重傷。
20(土)●抗日軍三〇〇人が満州中央銀行など襲撃。
21(日)●ラジオの古川緑波「歌ふ水戸黄門」を一部削除。
22(月)●大阪府、国史一科目の中等学校入試を実施。
23(火)●東京市で横行の偽造五円札が六三枚となる。
24(水)●東宝、日活の黒川弥太郎らの引き抜きを発表。
25(木)●安政五年以来の対英米永代借地制度、廃止。
26(金)●はしか流行で警視庁が予防パンフ五万枚配布。
27(土)●政府、英提案の主力艦装備砲の口径を制限するためのロンドン会議に不参加を通告。
28(日)●市川左団次の自由劇場再建が具体化と新聞に。
29(月)●貴族院、昭和一二年度予算約二八億一三九三万円(うち軍事費約一四億円)を可決。
30(火)●月賦販売の「丸井」が株式会社に改組。
●大阪帝大、日本初のサイクロトロン装置完成(4月6日理研の仁科研究室も完成)。
31(水)●母子保護法公布。母子家庭への生活扶助規定。

朝日新聞社

▲「神風号」快挙(4月9日)3日前、立川飛行場を発った朝日新聞社の純国産機が、所要時間約94時間の新記録でロンドンのクロイドン飛行場に到着。飯沼・塚越両乗務員は一躍世界の英雄になった。

朝日新聞社

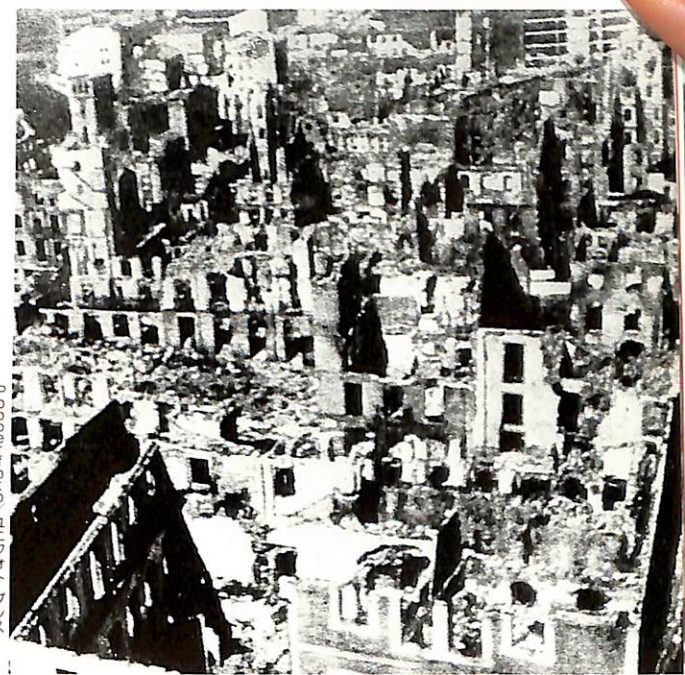
▲ヘレン・ケラー初来日(4月15日)失明・失聴の苦難を乗り越えて福祉事業に献身する「奇跡の人」の歓迎会が、日比谷公会堂で開かれ、女史(右)は不自由な喉で挨拶。各地を訪問し6月帰国。

▼独軍、ゲルニカを無差別爆撃(4月26日)スペイン北部バスク地方の小さな町の7割が破壊、死者約1600人。この地方出身のピカソは、この惨劇を「ゲルニカ」に描きパリ万博で発表した。

▲初の文化勲章(4月28日)文化の発展に貢献したものを文部省などが顕彰。左から日本画・横山大観と竹内栖鳳、国文学・佐佐木信綱、小説・幸田露伴、洋画・岡田三郎助、天文学・木村栄、物理学・本多光太郎と長岡半太郎。

▶愛新覚羅溥傑・嵯峨浩、結婚(4月3日)「満州国」皇帝の弟(34)が公爵・嵯峨公勝の孫娘(24)と東京の軍人会館(現・九段会館)で挙式。帝位に日本人の血を引く子を、と関東軍が企図したもの。

「歴史写真」

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▼「ひとのみち」教団大弾圧(4月5日)前年に開祖・御木徳一、今度は2代目教祖・徳近ら幹部を逮捕。28日には「天照大神は太陽」の教えは不敬罪として解散を命じた。写真はこの日の教団本部。

昭和12年4月

1(木)●郵便料金、三八年ぶり値上げ。はがき二銭に。
●日米間の写真電送成功。第一信は訪欧途上、バンクーバーに到着した秩父宮の写真。
●英、ビルマをインドから分離、直轄植民地に。

2(金)●東京府選挙粛正実行部、ビラ一〇〇万枚配布。

3(土)●溥儀の弟・溥傑、公爵・嵯峨公勝の孫・浩と結婚。

4(日)●南洋興発、北部ニューギニアで綿栽培に成功。

5(月)●弁護士の正木ひろし、「近きより」創刊。
●保健所法公布(7月1日施行)。
●「ひとのみち」教団教祖・御木徳近ら幹部検挙。

6(火)●朝日新聞社の訪欧機「神風号」、立川出発(9日九四時間一七分の世界新記録でロンドン着)。

7(水)●高等小学校などの就学率上昇と文部省。

8(木)●国鉄が電動送風サービスを計画中、と新聞に。

9(金)●東京自動車工業(現・いすゞ自動車)設立。

10(土)●仏の銀行・保険業、週四〇時間労働制を実施。

11(日)●東京府が悪質な花嫁学校の摘発を機に、府下の各種学校の実態調査を開始、と新聞に。

12(月)●福井市の西別院で法会中に本堂桟敷が崩落。

13(火)●内務省、治安維持からメーデー禁止を決定。

14(水)●松江市で大火。四百余戸を全半焼。

15(木)●「奇跡の人」ヘレン・ケラー、初の来日。
●永井荷風「濹東綺譚」、「朝日新聞」に連載開始。

16(金)●外・蔵・陸・海四相会談、武力侵攻を含む「対支(中国)実行策」「北支指導方策」を決定。

17(土)●隅田川名物「一銭蒸気」、一斉ストに突入。

18(日)●第一回全関東自動車競走大会を丸子多摩川オートレース場で開催。初の本格レース。

19(月)●警視庁、尾崎行雄の政見レコードを発禁処分。

20(火)●結城蔵相、不要・不急品の輸入抑制を言明。
●九五年ぶり再建の高野山根本大塔落慶法要。

21(水)●樺太沖でニシン漁船二四隻遭難。九五人不明。

22(木)●東京の小学校長らが、学校と家庭から流行歌を追放するため研究会を結成、と新聞に。

23(金)●初のフェンシング公式試合、慶大対法大戦。

24(土)●盛岡—東京五〇〇キロの伝書鳩競争で一等は五時間二〇分の新記録。

25(日)●日本興業銀行、不急の融資起債を拒否と決定。

26(月)●独空軍、スペインのゲルニカを無差別爆撃。

27(火)●第四回健康優良児準日本一の赤沢正一、二所ノ関部屋に入門、話題の「神風」を名乗る。

28(水)●長岡半太郎・幸田露伴ら九人に初の文化勲章。

29(木)●ジャン・ギャバン主演「我等の仲間」封切。

30(金)●第二〇回総選挙(棄権多く、大阪市で五割以上)。

証言・あの日この日

宇垣一成(68)

7月12日(月)〈盧溝橋で日支兵衛突し事態は重大化して居る。一月二十九日大命拝辞の際、殊に臣が拝辞後の陸軍の動向は誠に寒心に堪へざるものある、旨を奏上し置きたるが、爾来歴々と夫れが事実として現れつつある。/近衛内閣になりてからは、乾岔子事件と云ひ今次の北支事変と云ひ其の曲直の何れにあるを問はず、国際平和に眷々の大御心を悩し奉りつつあることは恐懼の極であり、痛心に堪へぬ〉(宇垣一成『宇垣一成日記』)

陸士1期生で陸軍の長老格だった宇垣は、軍備縮小派の陸軍大将だった。1月、広田内閣総辞職の後、後継首班に指名されたが、宇垣の実力と軍縮政策を警戒する陸軍中枢部の妨害によって宇垣内閣は実現しなかった。その直後から、宇垣が心配したとおり陸軍の暴走は始まった。もし宇垣内閣が実現していたら……。(山崎行太郎)

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲英国王戴冠式(5月12日)秩父宮ご夫妻ら55ヵ国の国賓が参列し、ロンドンのウェストミンスター寺院で盛大に挙行。写真は式後市民にこたえる新国王ジョージ6世(右)、中央はエリザベス王女(11、現女王)。

毎日新聞社

◀西宮球場オープン(5月1日)阪神急行電鉄が西宮市に建設、日本初の2階スタンドを持ち、約5万5000人収容。急速にファンをふやした職業野球はこの年、春・秋2期制となり設備の充実が急務となっていた。

◀世界一の吊り橋ゴールデンゲート橋(金門橋)完成(5月27日)サンフランシスコ市と、マリン半島間の全長2825メートルを4年かけて結んだ。写真は橋の上で開通を喜ぶ市民。

▼双葉山、横綱に昇進(5月26日)五月場所千秋楽で大関鏡岩を破り3場所連続優勝、満場一致で推挙された。25歳。写真は横綱仮免状授与式。40連勝中で人気は急騰した。

朝日新聞社

▲新渡戸稲造の銅像除幕式(5月15日)日米の「太平洋の架け橋」となるべく奮闘、4年前カナダで客死した農政学者の遺徳をしのび、彫刻家・朝倉文夫が制作し、東京・多磨墓地に設置。

昭和12年5月

1(土)●高島屋、組立式リゾートハウスを売り出し。
●西宮球場、開場。日本初の二階観覧席。

2(日)●王子電車従業員、二割増の賃上げ求め労組結成(4日スト突入。18日労組解消などで妥結)。

3(月)●バルセロナで共産党とアナーキスト派が市街戦(~8日。人民戦線の崩壊始まる)。

4(火)●パリ万博開幕(ピカソ「ゲルニカ」を出品)。

5(水)●警視庁、外国誌三誌を「不敬」などで販売禁止。

6(木)●ドイツ飛行船「ヒンデンブルク号」、米レークハースト上空で爆発炎上。三六人死亡。

7(金)●大相撲五月場所初日。双葉山人気で午前一時には観客数千人が両国国技館を取り巻く。
●大蔵省、公益事業への寄付金は非課税と通達。

8(土)●川口市の開業医、チフス菌入り菓子で三家族の殺害をはかる。一四人罹病し三人死亡。

9(日)●東京ではしか流行。一月からの死亡六〇四人。

10(月)●乃木大将肖像の二銭切手発行(昭和で初めて)。

11(火)●大阪・御堂筋の拡張工事が完成。

12(水)●英国王ジョージ六世の戴冠式挙行(日本から秩父宮が参列)。BBC、世界初のテレビ中継。

13(木)●東邦電力と中部電力、合併契約に調印。

14(金)●国策統合機関、企画庁設置。内閣調査局廃止。

15(土)●日本放送協会、聴取者三〇〇万突破祝賀会。

16(日)●物価高騰で重量不足の不正商品横行と新聞に。

17(月)●香港で日本船のランチが爆発し四三人死傷。

18(火)●商工省、インフレ対策の物価対策調査委設置。

19(水)●新宿中村屋、国語や数学教える工場学校開設。

20(木)●日本航空輸送、旅客料金を全線値下げと決定。

21(金)●総選挙で敗北の唯一の与党・昭和会、解党宣言。

22(土)●日本輸出メリヤス工業組合連合会、北米向け手袋・世界向け靴下の生産統制を決定。

23(日)●東京・和泉橋ホールのダンサー六一人、待遇改善を要求して旅館に籠城。

24(月)●日本仮名文字会、仮名づかいの修正(うぐひす→うぐいすなど)実現を文部省に陳情。
●初の信用保証協会、東京信用保証協会設立。

25(火)●大日本看護婦会連合会、設立大会。

26(水)●双葉山定次、第三五代横綱に昇進。

27(木)●木村秀政ら設計の航空研機、試験飛行を開始。

28(金)●チェンバレン英挙国連立内閣成立。

29(土)●巣鴨に東京拘置所落成。三〇〇〇人を収容。

30(日)●前年の東京市の結核による死亡者は一万三三一四人で世界一、と新聞に。

31(月)●文部省、「国体の本義」三〇万部を全国に配布。

◀河上肇(58)、出獄(6月15日)共産党大弾圧の中、昭和8年1月に検挙され、8月東京・小菅刑務所に入所、3年9ヵ月ぶりの自由だった。翌日「マルクス学者としての私の生涯を閉じる」と心境を発表。

◀スターリン、粛清の嵐(6月12日)トハチェフスキー元帥(写真)らソ連赤軍最高幹部8人が非公開軍事裁判にかけられ、全員銃殺刑。この2年間で高官98人が抹殺された。

朝日新聞社

▶冬季五輪開催に沸く札幌(6月9日)ワルシャワで開かれたIOC総会で、夏季大会の東京とともに開催が内定。写真は早くも祝賀ムードの札幌駅前デパート「五番館」。

朝日新聞社

▼石舞台古墳復元へ(6月)奈良県明日香村で発見され、昭和8年以来調査されていた。7世紀に建造され、国内最大級の横穴式石室がある往時の姿を再現する計画。末永雅雄ら京大考古学教室の指導で、貼石修理から着手された。

朝日新聞社

▲近衛文麿内閣成立(6月4日)45歳の「青年貴族宰相」(前列右端)で軍と政党の対立、中国関係などの難局打開に、国民の期待は大きかったが、陸軍の要請で馬場鍈一(左から二人目)を内相にするなど弱腰が目立ち、結局、戦時体制強化に走った。首相の左は外相・広田弘毅。

◀米国から「青い目の人形」(6月)ニューヨーク州の小学校が、女子高師(現・お茶の水女子大)付属小へ寄贈。人形の中には人気子役の「テンプルちゃん」もいた。

朝日新聞社

昭和12年6月

1(火)●初の募金切手、一割の献金つき愛国切手発行。●日本航空輸送、東京―新京(長春)定期便開設。
2(水)●移植三百余年の東京・芝増上寺の老松、伐採。
3(木)●東大地震研の石本巳四雄ら、小河内ダム建設予定地で人工地震による岩盤強度測定を開始。
4(金)●第一次近衛文麿内閣、発足。平均年齢五四歳。●金日成率いる朝鮮人民革命軍、鴨緑江越え、朝鮮の普天保で日本軍と交戦。
5(土)●伊那電気鉄道が中央・南アルプスへの登山者に遭難連絡用の伝書鳩を無料貸与、と新聞に。
6(日)●参謀本部、駐独武官・大島浩に日独間でソ連軍の軍事情報交換を促進するよう訓令。
7(月)●ダダイスト・辻潤、京都市内を彷徨中に検束。
8(火)●国際捕鯨新協定調印。日本は不参加。
9(水)●大阪国技館開館し、大相撲大阪場所が始まる。●IOC、第五回冬季五輪を札幌開催と内定。
10(木)●東京で赤痢流行。一月来の患者六二二五人に。
11(金)●石井柏亭ら海洋美術会結成。海事思想を普及。
12(土)●ソ連で赤軍粛清。トハチェフスキー元帥処刑。
13(日)●日本初の婦人カメラ・クラブ(LCC)創立。
14(月)●技術者需要急増で理科系教員が不足と新聞に。
15(火)●河上肇、非転向のまま三年九ヵ月ぶり出所。
16(水)●東京市が新宿駅前付近の建築物(8月着工)を三~四階建て以上の高層化制限、と新聞に。
17(木)●士官学校生入学倍増を決定、年齢も二年延長。
18(金)●前年出生率は過去最低の二・九九%と統計局。
19(土)●ソ「満」国境のカンチャーズ島にソ連兵上陸(カンチャーズ事件。20日交戦、29日ソ連撤退)。
20(日)●淡谷のり子、「別れのブルース」発売。
21(月)●一一年の犯罪件数は一三〇万件で、前年比一一〇万件の減少と内務省発表。
22(火)●警視庁、全派出所に自転車一〇〇〇台を支給。●ジョー・ルイス、世界ヘビー級王座につく。
23(水)●国立結核療養所官制公布、施行。●前進座演劇映画研究所設立。座員が共同生活。●三菱重工長崎造船所、技師・工員一一人を戦艦「大和」建造準備中の呉海軍工廠に派遣。
24(木)●帝国芸術院発足。美術院改組問題に決着。
25(金)●日本製鉄など六社が屑鉄共同購買会を設立。
26(土)●元文相・小橋一太、市会決選投票で東京市長に。
27(日)●日本画家・川端龍子、帝国芸術院会員を辞退。
28(月)●三菱地所、第二丸ビルの建設に着工。
29(火)●大審院、電気料金未払いの時効二年と新判例。
30(水)●東京・浅草の育児所が全焼、幼児一〇人焼死。

「現場」を歩く 中野

日本初のクレジットカードを発行した「丸井」本店は"駅のそば"

山本徹美

▲中野駅南口の丸井。本社ビルは、駅をはさんで反対側の北口にある。 但馬一憲

昭和一二年三月三〇日、省線中野駅南口にある百貨店「丸井」が資本金五万円で株式組織へ移行。店主・青井忠治(三三)は創業六年目にして東京における月賦販売の小売業を軌道に乗せた。

月賦商法は一九世紀初頭、九州や中国四国地方で行われていた「盆暮れ二回払い」の頼母子講方式がルーツと言われる。明治期には講の構成員に限り「商品先渡し」をする無尽講方式が出現。明治三七年、博多に田坂善四郎が「丸善」を出店、一八ヵ月月賦を開始したのが近代月賦販売の始まりとされる。

東京では大正初期に出店があったが、関東大震災をきっかけに家具、衣料品などの需要が急増。一括現金払いのできない消費者を対象に月賦販売店も増加し、昭和一〇年東京市産業局の調べでは、実に市内に五七三〇店舗を数えた。中でも最大規模を誇ったのが「丸共」と、「丸二」で、月賦百貨店と呼ばれた。富山県出身の青井忠治青年は丸二に就職、のれん分けの形で昭和六年二月、「丸二商会中野支店」を開業。一〇年四月、商号を丸井と改めたのである。

株式会社として近代経営をスタートさせた丸井は、和簞笥、洋服簞笥などの高級家具を主力商品に、月給取り(サラリーマン)の支持を得て成長してゆく。

若者とクレジット

中野駅南口にある丸井へ行ってみた。このビルは昭和四七年に完成したもので、場所自体は本店のあった時から変わっていない。私が初めてこの店を知ったのは、上京したばかりの昭和四九年頃だったと思う。友人からクレジットで買う、と聞いて、何のことかわからず、分割払いと知って納得したが、金利・手数料なし、定収入のない学生でも大丈夫と言われ、疑った記憶がある。

「昭和五八年から金利が加算されるようになりましたが、支払金額や支払日の設定は従来どおり、お客さまが自由に設定できます」(丸井広報室・川下雄司室長)

日本で最初にクレジットカードを発行したのが丸井で、昭和三五年三月、米国視察を終えた青井忠雄副社長(現・社長)の提案だった。カード会員は六二年には一〇〇〇万人を突破した。その核となったのは若い世代。同社の調査では顧客の七二%は三〇歳未満と出た。最近のヒット商品は、なんとクレジットで取得する自動車免許だという。

「ヤング層のブランド志向はいまだに根強いですね。そうしたニーズに敏感に対応することや、店舗が駅のそばにある利便性などが、数ある月賦百貨店の中で唯一生き残れた理由だと思います」(同前)

平成九年現在、資本金は三五七億七三〇〇万円、前年度売上高五〇一二億四六〇〇万円。三五ある店舗はすべて首都圏に集中、他所にエリアを拡大する考えはない、と言う。その自重、節度を利用する側も見習いたい。

▲昭和11年に新築された丸井の中野本店。丸井は、月賦価格を百貨店価格の1～2割高にとどめたパイオニア。 丸井提供

モノ語り'37

戦時突入寸前の"贅沢"品 サントリーの"角瓶"に「八日巻オルゴール付掛時計スリゲル」

◀**離乳食が商品化された**　日本で初めて離乳食が商品化され、「グリスメール」という名で和光堂から発売された。白米を一定の粒子に粉砕したもので、これに水、野菜スープ、牛乳などを加えてしばらくおき、とろ火で煮て作るグリース粥が、高品質の離乳食として人気を呼んだ。500グラム押ぶた丸缶入り1円。

▲**小粒でもピリリと撮影できるカメラ**　日本最初の超小型カメラ「ミゼット」が、美篶商会(現・美スズ産業)から発売され人気を集めた。ボディーは真鍮製。大きさは53×30×31ミリで、画面サイズは14×14ミリの10枚撮り。固定焦点レンズ。1台10円。ほかに、反射ファインダーや現像タンクも発売されていた。

日本カメラ博物館蔵／乙咩雅一

▶**だんだん凝ってきた時計**　この頃は、ゼンマイで動く機械式時計の傑作が続々生まれたが、服部時計店(現・セイコー)が売り出した「八日巻オルゴール付掛時計スリゲル」もそのひとつ。8日に1度ゼンマイを巻けばいいという高機能性に、オルゴールをつけて洒落っ気を持たせた商品だった。

◀**一世を風靡したウイスキーの登場**　「サントリー・ウイスキー」のいわゆる"角瓶"がこの年発売された。730ミリリットル8円で、その後ロングセラーになったことはいうまでもないが、発売した寿屋(現・サントリー)の創業者・鳥井信治郎にとっては、開発に苦労を重ねたすえにたどり着いた名品だった。当時、鳥井の周辺には絶対の信頼をおく3人のきき酒名人がいたが、スコッチウイスキーにも詳しいその3人が、そろって合格点をつけたことが、この"角瓶"誕生の背景にあった。

"角瓶"は商品名ではなかった

通称"角瓶"には、実は名称がない。ボトルのどこをながめても"角瓶"の文字は見あたらない。たんに「Suntory Whisky」とあるだけである。ユーザーがそのボトルの形から勝手につけた愛称だったのである。広告に堂々と"角瓶"の名が登場するのは、戦後になってからのこと。

写真の新聞広告は昭和17年のものだが、銘柄より何より、サントリー・ウイスキーの名を広めることが先決だったようだ。

ウヰスキーといふ ことば

ゲール古語のウヰスゲベータ、意味は、ウヰスゲは水ベータは生命、いのちの水。これが訛つてウスケボウ更に単純化してウスケ。そしてウヰスキーとなつた。

サントリー ウヰスキー

◀広告で、ウイスキーという片仮名の名称を強調できたのも、この頃までだった。

▼**アコーディオンが流行し始めた**　アコーディオンのベストセラー「アコーディオンリーダー号」が、この年トンボ楽器製作所から売り出された。34鍵、48ベース(ボタンのこと)の楽器で、265円という高価格商品だったが、一般家庭にも普及し始めた。"一家に1台、ハーモニカかアコーディオン"と言われていた時代だった。　服部昌一郎

▲**化粧水がすっかり定着した**　資生堂はこの年、「資生堂新美顔術」を発表し、肌のタイプ別美容法を提案、それに合わせて新製品が開発・発売された。ロングセラー化粧水となった「カーマインローション」もこの時に発売され、ニキビなどに対する消炎作用や消毒性のある薬品を白粉原料に加えた。なお化粧水に"ローション"という言葉が使われたのも、この時が初めてのことだった。

ベストセラー

時代の流れに逆らうような恋の名作『濹東綺譚』『雪国』

戦時体制が強化され、男女の恋物語などもってのほかとなりそうなぎりぎりの年に、恋の名作が相次いで刊行された。

永井荷風の『濹東綺譚』はこの年四月に、まず私家版で刊行された。著者自装の瀟洒な本で、数枚はさまれた口絵に、自分で撮った写真を載せている。そこには作品の舞台となった遊廓・玉の井が写し出されており、次のような自作の短歌や俳句も添えられた。「里の名を人のとひなばしらつゆの玉の井深きそこといはまし」「遠みちも夜寒になりぬ川むかう」「秋晴れやおしろい焼の顔の皺」……。

この私家版刊行後、新聞連載を経て、八月には岩波書店が、装丁はほとんど変えず、判型を大きくして刊行した。これには荷風の写真はなく、木村荘八のスケッチが挿入された。このスケッチもまた味わい深く、「あの土地の女には似合はしからぬ容色と才智とを持つてゐた」娼婦と、主人公である作家との微妙な交流を描いた作品に、一層の興趣を添えた。

同じ年、川端康成の名作「雪国」を含む短編集『雪国』が刊行されている。雪深い温泉場の芸者・駒子と、東京からの客・島村との交情を描いた作品だったが、その描写のみごとさは同時代の作家や批評家の多くを感嘆させた。たとえば作家・上林暁は冒頭の、駒子が駅長と会話するシーンをとらえて「僕たちが文学の修業をしてゐるのは、こんな美しい情景を探り当てるためだ」と書き、保田與重郎は、「凡そ小説の達しうるやうな極点に達した名品」と絶賛した。なおこの作品は、「火の枕」「夕景色の鏡」などの題名で各文芸誌に発表された断片を、一編の作品としてまとめたものである。

さらにこの年、それまで「三田文学」に連載されて好評だった石坂洋次郎の『若い人』が刊行されベストセラーになった。地方のミッションスクールの若い国語の教師と、彼にあこがれる女生徒と、彼女がライバル意識を持つ女教師とが、微妙にからみ合う、時代の流れに逆らうような趣を持つ青春小説だった。

◀『濹東綺譚』(岩波書店、2円)
日本近代文学館提供

▶『雪国』(創元社、一円七〇銭)
日本近代文学館提供

◀『若い人』(改造社、全2巻、各1円80銭)

スターと名場面

封切当日に召集令状が！山中貞雄の「人情紙風船」

この年、映画を地で行くようなドラマチックなことが起こった。山中貞雄監督の傑作「人情紙風船」が封切られた八月二五日、当の山中に召集令状が届いたのである。やがて山中は「『人情紙風船』が遺作ではチトサビシイ」と書き残して戦地へ向かい、ついに帰ることがなかった。映画の方は、前進座総出演と銘うっただけあって、演技陣は充実しており、舞台となった長屋とそこでの生活が写し出される映像を、一層味わい深いものにした。権力側対ほとんど丸裸の男たちとの闘いという構図なのだが、どこか悲しさが漂う映画だった。

同じ年に、エノケン(榎本健一)と山本嘉次郎監督のコンビで「エノケンのちゃっきり金太」が公開されている。エノケンは、幕末の混乱期に活躍する腕のいいスリの役だが、軽い動きと独特の歌いっぷりが、喜劇とはいえ洒落た映画に仕立てた。

洋画では「歴史は夜作られる」が、小粋なシーンの積み重ねやファッションで目を奪った。ラブロマンスでもあり、この時代には目立つ作品だった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「限りなき前進」(小杉勇)
「オーケストラの少女」(ディアナ・ダービン)

マツダ映画社提供

▲「人情紙風船」で浪人者を演じた河原崎長十郎(中)と、したたかな髪結いの男を好演した中村翫右衛門(右)。

▼「歴史は夜作られる」で二枚目ぶりを発揮したシャルル・ボワイエ(左)と、美人女優として評判の高かったジーン・アーサー(右)。

川喜多記念映画文化財団提供

マツダ映画社提供

▲「ちゃっきり金太」で大活躍のエノケン(右)と、追っ手役の中村是好(左)。

◀人気絶頂にあった林長二郎は、俳優の生命とも言うべき顔を斬られ、再起をあやぶまれる。しかしこの事件で心機一転、「再び第一歩から芸道なり生活なりを踏み直したいと決意」し、退院後、本名の長谷川一夫を名乗り「藤十郎の恋」に主演。

人物クローズアップ

長谷川一夫（二九）

東宝移籍問題で顔を斬られて人気が高まった希代の二枚目

昭和一二年一一月一二日の夕刻、林長二郎こと長谷川一夫（二九）は、東宝移籍第一回作品となる「源九郎義経」のスチール撮影を終え、東宝京都撮影所から三〇メートルほどのところにある、東宝重役・大沢善夫の別邸に向かっていた。

事件が起きたのは、一夫が大沢邸の前まで来た時だった。「林さん」という声に振り返った一夫に、黒い影が飛びかかった。一瞬、左頬に焼けつくような刺激が走り、一夫はその場にうずくまる。頬をおさえた手に鮮血がしたたり落ちた。

診察の結果、傷は二筋。ひとつは、左目の下から上唇にかけて一二センチ、もうひとつは、左耳下から頬にかけて約一〇センチ、深さは二センチもあった。

林長二郎が東宝と契約を結んだのは、この日の一ヵ月前だった。新聞各紙は「林長二郎松竹脱退　東宝入社」の記事を大きく掲げ、「忘恩の徒」「背信者」と激しく非難した。周囲には険悪な空気が漂っていた。傷害事件はこうした時に起きたのである。

長谷川一夫は明治四一年二月二七日、京都府紀伊郡堀内村字六地蔵（現・京都市伏見区桃山六地蔵）生まれ。一夫が歌舞伎の世界に入ったのは九歳の時で、関西歌舞伎の大御所・中村鴈治郎のもとに入門、鴈治郎の長男・林長三郎の門弟になった。林長丸という名をもらい、女形として修業に励むことになった。

その一夫が、この世界に疑問を持つようになったのは、一〇代の後半だった。世襲制の歌舞伎界では、名門の出でない限り脇役にしかなれない。それが悔しかった。

映画界へ転じたのは昭和二年。鴈治郎から林長二郎の名をもらった。映画はヒットを重ね、林長二郎の名は全国に知れ渡った。松竹時代の最大のヒット作品は「雪之丞変化」（衣笠貞之助監督）である。この映画の撮影が始まる直前、鴈治郎が亡くなり、それが松竹脱退の原因になった。傷害事件の後、全国のファンから一夫に同情が寄せられ、一夫の人気はかえって高まった。林長二郎の名は松竹の名跡であるため、事件後、東宝では本名の長谷川一夫を用いることになる。

東宝を経て、昭和一四年には大映に移籍。傷害事件の黒幕と言われた、大映社長・永田雅一との奇妙な縁だった。

映画評論家の佐藤忠男氏は、映画俳優、長谷川一夫を次のように定義する。

「日本映画最大のスターの一人。そして歌舞伎界の二枚目から映画界に移ったパイオニアの一人です」

一夫の後援会「花菱会」の会長だった三ツ沢正治氏（ブロマイドのマルベル堂顧問）は、素顔の長谷川一夫をよく知る一人で、こう述べる。

「あの人は子どもの時に歌舞伎の世界で苦労したせいか、他人に対する思いやりのある人でした。お弟子さんに用事を言いつけたのを、私は見たことがない」

昭和三九年にはNHK大河ドラマ「赤穂浪士」に大石内蔵助役で出演、「おのおのがた」の台詞は流行語になった。また四九年には「宝塚公演」で「ベルサイユのばら」を演出、従来の宝塚にはなかった演出法で空前のヒットを呼ぶ。

昭和五九年四月六日、糖尿病に頭蓋内膿瘍を併発して死去。七六歳。死後、国民栄誉賞が贈られた。

◀林長二郎は、昭和二年の松竹入社以来、移籍までに約一二〇本の作品に出演した。

マルベル堂提供（二点とも）

▲炎上し墜落する「ヒンデンブルク号」。地上からは、「100万ものマグネシウムの輝き」を持つ炎が立ち上がるように見えたという。　サム・シーア　CORBIS-BETTMANN　PPS

決定的瞬間

無惨に破れた大飛行船時代の夢
尾翼に描かれた鉤十字もろとも
「ヒンデンブルク号」爆発炎上！

空の豪華客船「ヒンデンブルク号」は、一九三七年五月三日、三六人の乗客と六一人の乗員を乗せて、フランクフルトに新設された国際飛行船空港を出発した。目的地は大西洋を横断したニューヨークで、所要時間は六十一時間余を予定していた。

洋上をゆっくりと進む「ヒンデンブルク号」（LZ一二九号＝一九三六年完成）は、全長二四八メートル、直径四一・八メートル、ガス容量は一九万立方メートル、時速一二五キロ、乗客定員五〇人という巨大なものだった。「巨鯨が浮かんでいるようだ」と言う人もいれば、いや「巨大な葉巻が空に浮かんでいるようだ」と言う人もいた。当時の人々は、この飛行船の偉容に魅せられ、いずれ自分もこの船に乗って空を飛べるという夢を抱くようになっていた。

今回、アメリカとドイツを結ぶ定期便の第一便として飛び立った「ヒンデンブルク号」には、食堂での豪華な食事、展望サロン、喫煙室までも完備されていた。この飛行が成功すると、飛行船の信頼は確固たるものになり、営業的にも大成功するはずであった。しかし、ニューヨーク上空に達した時、「ヒンデンブルク号」に思わぬ災厄が待ち受けていた。

五月六日、アメリカ東海岸は雷雨に見舞われ、「ヒンデンブルク号」は雨の中を慎重に進む。同日午後五時、ニューヨーク郊外のレークハースト飛行場に接近した飛行船は、雷雲の接近でいったん待機の状態に入った。

眼下には一一〇人の海軍の要員、一一八人の民間の着陸援助要員、多数の報道関係者が空を見上げていた。午後六時八分、飛行船は着陸態勢に入り、一三分後に綱がおろされてゆっくりと地上に接近。その時、突然船尾から閃光（せんこう）が走り、一九万立方メートルにもおよぶ水素ガスが大音響とともに爆発炎上した。

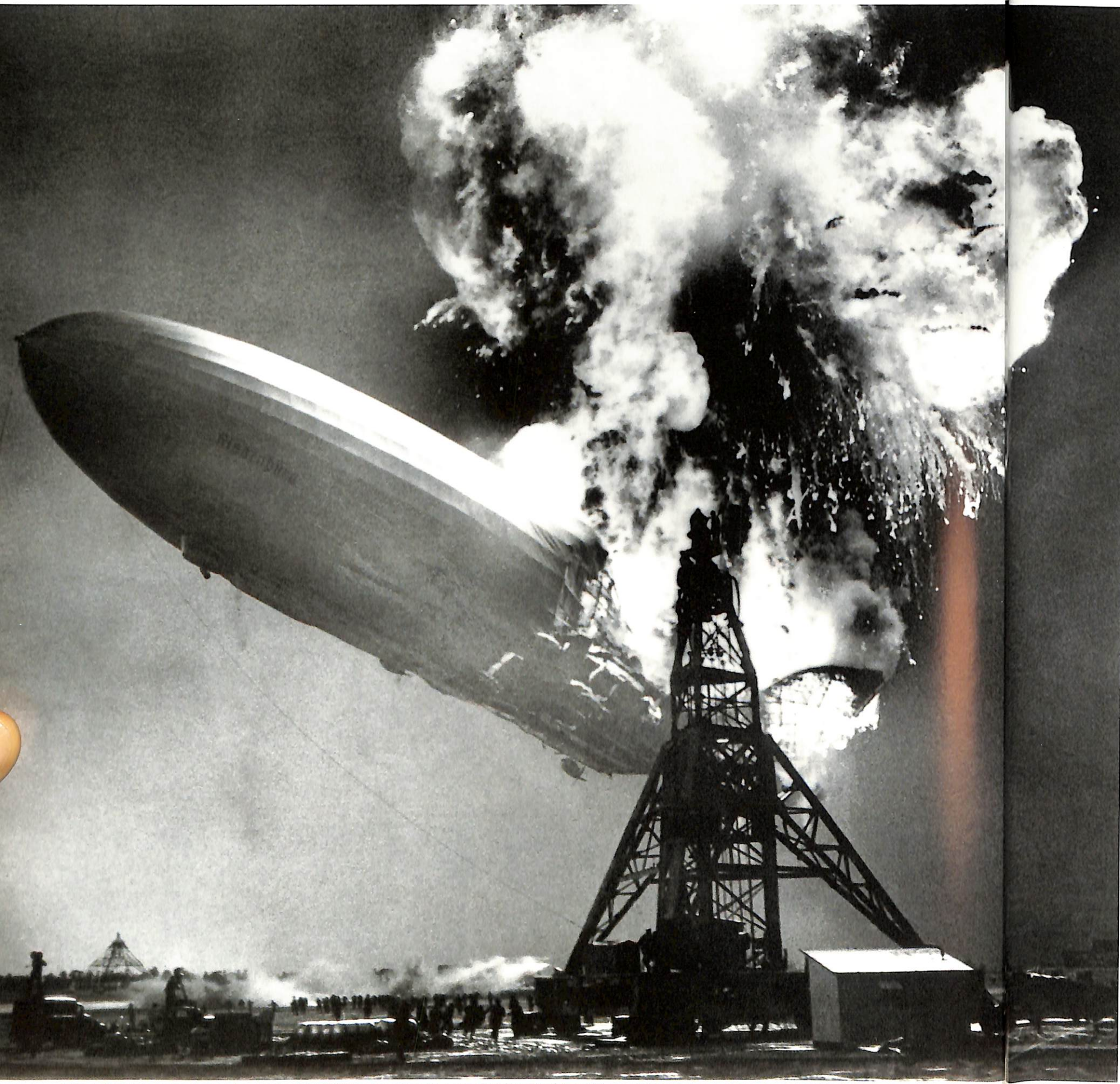
地上の着陸援助要員たちは現場から逃げまどい、下船の準備を整えていた乗客は、キャビンやサロンの窓から地上に飛び降りた。

ラジオ放送で着陸を実況中継していたハーバート・モリソンは、「恐ろしい、ああなんということなのでしょう（中略）、悲惨なる人々、燃え、燻（くすぶ）る残骸、まるで籠の網のように焼け爛（ただ）れた骨格、ああ、息が出来ません」

と、「ヒンデンブルク号」の悲劇をマイクに向かって絶叫した（『飛行船の時代』関根伸一郎、丸善ライブラリー）。

この事故での死者は乗客一三人、乗員二二人、地上要員一人の合計三六人であった。飛行船をドイツの広告塔として利用するため、宣伝相ゲッベルスが尾翼に強引に描かせた〝ハーケンクロイツ〟（鉤十字（かぎ））もあっけなく燃え尽きた。事故の原因は「落雷によって生じた磁場の衝撃を受けガス爆発を起こした」とされるが、正確な原因究明はなされないままに終わった。

一八九七年にダビッド・シュヴァルツがたよりない硬式飛行船を空に浮かべて以来、ツェッペリン伯爵が基礎を築き、エッケナー博士へと受け継がれてきた飛行船の夢と技術は、この事故が契機となって空から姿を消していく。

▲事故の様子を伝える「サンデー・ミラー」紙。カラーフィルムを使用して印刷した新聞写真。

美の出会い

国民精神総動員体制の中 日本画の"横綱"横山大観 第一回文化勲章受章者に

▲「生々流転」(部分)大正12年。長さ38.4㍍、幅55.4㌢の水墨画の絵巻。大観の最高傑作と言われる。 東京国立近代美術館蔵

昭和一二年四月二八日午前一一時、内閣賞勲局総裁室で、日本画家の横山大観（六八）が第一回目の文化勲章を授与された。ほかにも長岡半太郎（七二）、本多光太郎（六七）らの物理学者をはじめ、天文学者の木村栄（六六）、歌人の佐佐木信綱（六四）、作家の幸田成行（露伴、六九）、洋画家の岡田三郎助（六八）、藤島武二（六九）、日本画家の竹内恒吉（栖鳳、七二）らが受章。この中で、藤島は満州（中国東北部）への取材旅行中だったため出られなかったが、ほかの八人は皆、フロックコートまたは紋付きを着用して出席し、下条賞勲局総裁から首に橘の勲章をかけてもらった。

文化勲章は、この年の二月一一日の勅令により制定されたもので、科学や芸術など文化の発展に偉大な貢献をしたものに対して、その業績をたたえるとともに、文化の創造を奨励すべく、天皇の名によって発布された。新聞の見出しには「九氏・栄誉に感泣」（「東京朝日新聞」）などという字句が躍り、晴れの初受章をたたえている。この時期に軍人や政治家ではなく、科学者や芸術家が勲章を授与されるのは、きわめて異例なことだった。

洋画では、フランス留学から戻り、東京美術学校で多くの後進を指導していた岡田・藤島両名の選は順当と言える。また、昭和一〇年、松田文相による帝国美術院改組で、中心的な役割をはたした大観が受章するのは、世評の高さからみても当然と見られた。

東京美術学校の校長・岡倉天心を絶対的な師と仰いでいた大観は、明治三一年の美術学校騒動で、校長を辞職した天心に従い、橋本雅邦、菱田春草らと日本美術院創立に参加。第一回院展で、大観は天心への心情を託した「屈原」を出品し、賛否両論を巻き起こす。線描を基本とする従来の日本画に対し、大観は春草とともに「朦朧体」と呼ばれる没線主彩の作画を提示したため、画壇からは酷評されたのである。

▲受章した大観。昭和9年には、朝日文化賞も受賞している。

◀「無我」明治30年。142.8×85㌢、絹本着色。この作品により、大観の名は一躍画壇に知れ渡った。 東京国立博物館蔵

明治三六年に春草とともにインドへ、翌年には欧米を旅行し、帰国後は天心らと茨城県五浦に転居して制作を開始。この五浦時代の貧窮の中での研鑽が、後に大きく開花することになる。明治四〇年から始まる文展（文部省美術展）で、大観は回を追って新境地を開き、画名を高めていった。しかし大正三年、日本美術院の再興にあたり、文展審査員をはずされ、いきおい文展と張りあう形になったが、宮中からの依頼もふえると、皇室を尊ぶ気持ちも深くなっていった。西洋かぶれの絵を批判したり、官に反旗をひるがえす一方、権威に弱く矛盾した側面を持っていたが、こと絵に関しては妥協を許さなかった。酒を飲んでいる時でもスケッチをするほど、全生活を絵一筋に賭けていたのである。

昭和一二年という年は、日中全面戦争に突入した年である。文部省は「国体の本義」を刊行し天皇への絶対服従を説き、政府は国民精神総動員運動をスタートさせ、一層の統制を強めていった。その動きは画壇にも波及し、裸体画や前衛的な絵画は頽廃的だという理由で抑圧され、大観と栖鳳は内閣から「国民精神総動員」のポスター原画を依頼される。翌一三年には、大観は第二回新文展に「皇太神宮」を出品し、国粋主義者の立場を明らかにした。以後、彼は日本精神の象徴として富士山を数多く描き、大観と言えば富士山というイメージができあがった。そして昭和一八年に日本美術報国会が発足されると、大観はその会長に就任する。

敗戦時に大観は戦犯容疑で取り調べを受けるが、昭和二六年には文化功労者に選ばれている。以後三三年に八九歳で没するまで、第一線で精力的に描き続けた。

20世紀博物館

ハカリの小歴史館 京都市

重さが価値の代名詞だった時代の"バイテク"機器

桑原茂夫

石井実雄

▶明治時代に用いられていた、携帯用の小型棹バカリ。

▼小さな博物館だが、思いがけない発見も。左端に見えるのが、江戸時代の両替用のハカリ。

▲両替用のハカリに使用されていた分銅。その形が、現在の地図で金融機関を表す記号として生きている。

京都市役所の近くにある、ハカリの専門メーカー"イシダ"の四階の一角に「ハカリの小歴史館」のコーナーが設けられている。今では商店でもあまり見かけなくなった台つきのハカリや、分銅でバランスを取ってはかるハカリ、大雑把な印象を与える昔懐かしい棹バカリなどが、ところ狭しと並んでいる。

中でも目を引きつけられたのは"両替用"と記された江戸時代のハカリで、これはおカネの重さをはかる、天秤式のハカリである。

片方の皿に載せるのは"両"単位の分銅で、三〇両から一両まで細かく用意されている。これらの分銅を組み合わせて、おカネの重さをチェックするわけだが、この分銅が、中央がくびれた楕円形のような輪郭を持っていてユニークなのである（写真参照）。しかし係の人に、この形をどこかで見たことがないかと尋ねられ、首をひねっていると、地図で記号として使われていますと大きなヒント。なるほどこれは、簡略にデザインされて〔〕の形で、銀行などの金融機関を表す記号として用いられているのだった。

まさかあの記号が、昔のハカリの分銅に由来するものだとは、思いもよらなかった。重量測定装置であるハカリが、社会的にきわめて大きな意味を持っていたことの名残とも言える。

金や銀を通貨としていた江戸時代、金や銀の重さはすなわち価値であり、その価値に応じてモノやサービスを得ることができた。銀一〇匁なら酒一升何合と決められていたわけだ。それゆえに、重さの正確さ（と測定装置）に対する信頼は、通貨が通貨であるための絶対的な条件だったのである。それで重さを測定するハカリの製造は、幕府が完全に統制権を握り、その製造に関する権利を、江戸の守随氏と京都の神氏に独占的に与えていた。

この製造権が、明治二六年の度量衡法の施行によって、広く民間に移されるようになったが、その製造許可が得られたのは、社会的に相当信頼されている有力者に限られていた。「ハカリの小歴史館」を運営する株式会社イシダ（旧・石田衡器製作所）もこの年、石田音吉によって創業された製造所だったのである。そして、明治から大正にかけてはもっぱら木製の棹バカリを製造し、明治三三年には、年間二万六千余個という当時としては驚異的な記録を残している。

やがてハカリも、棹バカリ時代には考えられなかったような精密機械の領域に入り、さらに精密電子機器となって、POSシステムと連動する計測装置に姿を変えていくのである。この小さい博物館を出て、一階に下りると、製品のショールームがあって、これがいわば現代のハカリ展示コーナーとなっているのだが、ここにはもはや天秤のイメージはない。

それにしても、一七平方メートルという狭い空間ながら、流通の基本に重量測定の正確さがあることをあらためて知らせてくれる小博物館であった。

◀同じ建物の一階にある、現代のハカリのショールーム。精密電子機器ばかりだ。

●ハカリの小歴史館
京都市左京区聖護院山王町四四
㈱イシダ本社内
☎〇七五－七七一－四一四一
京阪電車丸太町駅下車、東へ徒歩七分
開館時間＝一〇時～一六時
休館日＝土・日曜日、祝日
総務課か広報室へ電話連絡が必要

被害者は3000人説から30万人説まで
日本国民には伏せられた殺傷、強姦、掠奪……
「南京大虐殺」の証言！

▲陥落から2日後、12月15日の南京市内。日本軍は12月9日、南京の中国軍に開城を勧告、13日に突入。兵、市民の別なく殺傷し、街は廃墟と化した。 毎日新聞社

昭和一二年一二月、南京を占領した日本軍は、暴虐のかぎりをつくした。「南京大虐殺」である。日本ではこの「虐殺」の有無、あるいは被害者の数をめぐり、いまだ延々と論議が続いている。在南京の欧米人、被害にあった中国人、そして日本人自身がそれぞれの立場から見聞した「虐殺」の一部始終とは……。

小銃で一斉射撃後 背中を田楽刺しに

膠着していた上海戦線は、昭和一二年一一月五日の第一〇軍、三個師団の杭州湾上陸以来、俄然、日本軍の攻勢が強まり、蔣介石率いる中国軍は、総崩れの様相を呈した。そして、日本軍は当初の予定にない南京占領方針を打ち出す。松井石根大将（五九）を司令官に、二〇万人を超える「中支方面軍」は、南京突入の熾烈な先陣争いを続け、ついに一二月一三日、南京に、怒濤のごとく突入した。

南京における日本軍の所業を、ドイツの世界的企業、ジーメンスの南京支社長で、南京国際安全区委員会の代表でもあったジョン・ラーベ（五五）は、「実際にこの目で見なかったら、とうてい信じられないような光景」（『南京の真実』講談社）と前置きして、次のように書く。

「日本軍は十人から二十人のグループで行進し、略奪を続けた。（中略）（国民党軍）元兵士を千人ほど収容しておいた最高法院の建物から、四百ないし五百人が連行された。機関銃の射撃音が幾度も聞こえたところをみると、銃殺されたにちがいない」

ナチス党員だったが虐殺阻止に尽力し、「南京のシンドラー」とも言われたラーベは、日本軍の所業や、軍服を脱いだ国民党軍兵士、さらに一般市民の被害を、安全区委員会メンバーの報告も含め、克明に記録している。

「ラーベの証言は、欧米人の第三者が見聞したもので第一級の資料と見てよいでしょう。欧米人がみずからの危険もかえりみず、一般市民を守ろうとしたヒューマニズムは高く評価されるべきです」と言うのは明治学院大学の横山宏章教授だ。

支局近くの洋服屋の主人が危険だ、と急を告げられた「朝日新聞」記者の今井正剛も、後に「文藝春秋」昭和三一年一二月号で、こう書いた。

「空き地で、日本兵が中国人をたくさん集めて殺している。（中略）四、五百人もの中国人の男がしゃがんでいる（中略）六人ずつの中国人が立つ。二、三十歩離れたうしろから、日本兵が小銃の一斉射撃、バッタリと倒れるのを飛びかかっては、背中から銃剣でグサリと止めの一刺しである。（中略）つぎつぎに射殺され、背中を田楽刺しにされていく」

▲虐殺された後、薪の上に積まれ、油で焼かれた死体。大半が一般市民で、女性や子どもも含まれていた。　村瀬守保

◀殺した後で河岸へ運んだのか、河岸へ連行して殺したのか、揚子江岸にはおびただしい数の死体が放置されていた。　村瀬守保

南京攻略軍の旅団長の佐々木到一（五二）は、自身の『南京攻略記』で一二月一三日の情景を「俘虜ぞくぞく投降し来たり、（中略）激昂する兵は（中略）片はしより殺戮する」「わが支隊のみにて（俘虜を含め）二万以上の敵は解決されている」とも書いている。

当時九歳の少女、夏淑琴さんは、両親、祖父母、一五歳の長女から乳飲み子まで五人姉妹の九人家族だった。一二月一三日朝、夏さん宅に日本兵が乱入し、父と祖父母を射殺、夏さんは、銃剣で刺され気絶する。気がつくと、四歳の妹が泣き叫び、一五歳と一三歳の姉が下半身を裸にされ殺害されていた。近くの防空壕の中に、やはり下半身むき出しの母と一番下の妹の死体が横たわっていた。一家九人のうち、七人が惨殺された。いたいけな少女まで凌辱されたうえで……。

公式数字には表れない水面下での無数の被害

戦後、「南京大虐殺」をめぐり、論争が繰り返された。「虐殺虚構」論もあったが、現在ではこうした極論は影をひそめ、論点は被害者の数にしぼられている。

大虐殺は幻とする論者も、虐殺は皆無とは言わない。が、被害者数には言及しない論者がほとんどだ。もちろん、被害者数は南京周辺に限るか、杭州湾上陸以降とするかによっても大きく変わる。具体的な数にしても〝幻〟派の元陸軍少佐・畝本正己氏のように三〇〇〇～六〇〇〇人説を唱えるものから、〝中間派〟の秦郁彦氏（千葉大学教授）のように三万八〇〇〇～四万二〇〇〇人説、そして中国政府の三〇万人説まで、その乖離ははなはだしい。前出のラーベは、ヒトラー宛の上申書で、五万から六万人と報告している。いずれにせよ、被害者の数の確定はもはや不可能だろう。

だが、たしかなことは、南京攻略軍の軍紀が乱れていたことだ。外務省東亜局長だった石射猪太郎（五〇）は回顧録で、「掠奪、強姦、目も当てられぬ惨状とある。嗚呼これが皇軍か」と慨嘆した。軍もこれを承知していた。陸軍省の秘密文書には「ある中隊長は『余り問題が起こらぬように金をやるか、または（中略）殺しておくようにしろ』と暗に強姦を教え」るなど、兵士の本音が記されている。

だが、こうした事実は、いっさい報道されなかった。厳しい報道管制下にあったからだ。それどころか、日本では各地で「南京陥落奉祝」の提灯行列に浮かれていたのである。

南京攻略部隊と対峙したのは、蒋介石直系の精鋭部隊だった。そのため、上海戦以降の日本軍は一万人を超す戦死者を出していたのである。これも日本軍を虐殺に駆りたてた一因とされている。

南京戦に従軍した元上等兵は本誌の取材に対し、家族にもけっして話せないが、と前置きして「死と直面しながら、今日も死なずにすんだ、と思うと、酒と女がほしくなる。強姦した後は、始末しろという暗黙の了解があった。だから日本の公式数字には絶対に表れない水面下の被害が無数にあるはずだ」と告白した。

藤原彰・元一橋大学教授は「南京大虐殺は、日本が国際法を蹂躙して暴虐のかぎりをつくした象徴的な出来事だ。この事実を直視せず、『虐殺は幻だ』『数が多すぎる』と言う人がいるが、それこそが、現在のアジア諸国との冷たい関係の原因を作っている」と指摘するのである。

▲国内では「南京陥落」の報に提灯行列が繰り出し、宮城前広場から銀座へと流れた。　影山光洋

▶国際劇場開く（7月3日）東京・浅草に人気者ターキー（水の江滝子）を擁する松竹少女歌劇団の本拠地が完成。4階建て、客席は4400で最新設備を誇り、ラインダンスを目玉に宝塚の東京進出に対抗。

毎日新聞社

▼「千人針」流行（7月）盧溝橋事件が起こると、出征兵士への贈り物として、布に糸で一人一針ずつ1000人が縫う「武運長久」のお守りがにわかに注目され、街頭に立つ婦人がふえた。写真は銀座で。

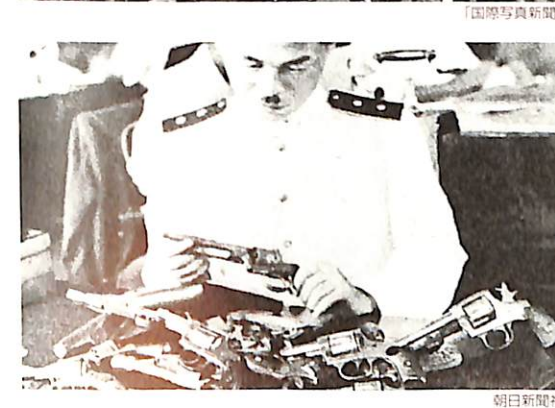
梅本忠雄／立命館大学国際平和ミュージアム提供

◀各地で盆踊りがさかん（7月）日中戦争勃発の重苦しい空気の中、庶民のかっこうのはけ口となった。写真は東京・浅草で芸妓らも加わったにぎやかな盆踊り。昭和8年から、「東京音頭」が大流行した。

▶ターキーら献金（7月17日）東京・三宅坂の陸軍省恤兵部を、松竹少女歌劇の水の江滝子（中央）らが訪問。戦地の軍人への慰問金93円20銭を手渡し、全国の献金運動宣伝に一役買った。

「国際写真新聞」

▶拳銃献納（8月）栃木県警が交戦中の軍の拳銃不足にこたえるため、各署を通じて全県民の協力を呼びかけた。数日後には拳銃30丁、実弾400発が集まり、軍に献納された。

朝日新聞社

◀通州事件勃発（7月29日）日本の航空隊が、華北で親日的な冀東政府保安隊を誤爆。報復攻撃に出た保安隊は、在留日本人約200人を殺害したため、国内では軍部支持が急速に高まった。写真は収容された負傷者。

毎日新聞社

昭和12年7月

1（木）●文部省、ラジオ体操への国民総動員を決定。

2（金）●米の女性飛行士イアハート、世界一周飛行中、ニューギニア付近で消息を絶つ。

3（土）●東京・浅草に松竹少女歌劇団の国際劇場開場。

4（日）●東京・洲崎の娼妓三〇〇〇人、国防婦人会結成。

5（月）●東京市、三千余の町会統制の講習会を開催。

6（火）●神戸市電従組、ストに突入し淡路島に籠城。

7（水）●北平（北京）郊外盧溝橋で発砲事件（盧溝橋事件。日中全面戦争へ）。

8（木）●中国共産党、全人民に即時対日抗戦呼びかけ。
●英ピール調査団、パレスチナ分割案を提案。

9（金）●閣議、杉山陸相の華北増派案が米内海相らの反対で見送られ、盧溝橋事件不拡大を決定。

10（土）●警視庁、第一回野犬救済マーケットを開催。

11（日）●緊急閣議、朝鮮軍・関東軍の一部華北派遣、盧溝橋事件の呼称を「北支事変」と決定。

12（月）●華北派兵の報に株価大暴落（～8月末）。

13（火）●軍事機密保護法改正公布。報道規制を強化。

14（水）●プロ野球春期リーグで巨人優勝。最高殊勲選手に沢村栄治（二四勝四敗、防御率〇・八一）。

15（木）●日本郵船、東回り世界一周航路を開設。

16（金）●陸軍省、東京の女学生二万二〇〇〇人に慰問袋四万個の製作を依頼。
●独ブッヘンバルトにユダヤ人強制収容所開設。

17（土）●蔣介石と周恩来が会談、抗日戦に合意。蔣介石「最後の関頭」にいたれば徹底抗戦と声明。

18（日）●諸国家主義団体を糾合し日本革新党結成。

19（月）●東京地裁、日大生保険金殺人事件（10年）で父に死刑、母に無期懲役、妹に懲役六年の判決。

20（火）●朝日新聞社、軍用機献納運動を提唱。

21（水）●文部省、思想局を拡充し教学局を設置。

22（木）●日本基督教連盟、国策協力を表明。

23（金）●日本万博の会場図発表。東京・月島に五〇館。

24（土）●近衛首相が対中和平密使として派遣した二月会の宮崎龍介を、神戸で憲兵隊が逮捕。

25（日）●鎌倉市で海のカーニバル開催。人出二〇万人。

26（月）●北平進出中の日本軍、広安門で中国軍と衝突。

27（火）●緊急閣議、内地三個師団の華北増派決定。「日本軍は華北で自衛の行動をとる」と声明。
●日本空輸、羽田でのエアポートガールを起用。

28（水）●中国駐屯軍、総攻撃開始（30日天津占領）。

29（木）●河北省通州で邦人二〇〇人殺害（通州事件）。

30（金）●日中戦争勃発後の恤兵金二六九万円と陸軍省。

31（土）●三井玉造船所（現・三井造船）設立。

証言・あの日この日

鏑木清方（59）

9月某日　〈東京へ帰って来て、出征者を送るのの盛んなのに目を瞠った。銀座あたりまで出るとトラックに一杯人が乗って旗を振る、数台の自動車がそれに続いて通行人と相和して万歳を叫ぶ。／街頭の戦時風景として著しいのは／千人針であろう〉（鏑木清方『鏑木清方随筆集』）

東京の牛込に居をかまえる鏑木は、8月の初めに金沢の別荘にこもり、約束の原稿を書いていた。9月になって牛込の自宅へ戻ってみて、出征兵士の多いのに驚く。日中戦争（「支那事変」）が本格的に始まったことを示していた。久しぶりに日比谷の東宝劇場にレビューを見に行くと、いたるところで「千人針」の光景に出くわす。画家らしく、銀座や新宿などの盛り場で、戦場にいる父や夫の無事を祈りながら、女性たちが一針ずつ針を運ぶ姿は、そのまま生きた風俗画だと思う。　（山崎行太郎）

毎日新聞社

▲第二次「上海事変」始まる（8月13日）中国軍の陸戦隊員射殺事件をきっかけに、日中両軍がついに戦端を開いた。23日総攻撃に移った日本軍は、予想外に強力な中国軍に11月まで苦戦した。写真は15日、市内で攻撃する陸戦隊。

▶秋田県の時局メニュー（8月）湯沢町の食堂に日中戦争開戦直後に貼り出された。慰問袋を「胃問袋」として始まり、「弾丸」は豆あられ、「日章旗」は卵のフライなどと洒落っ気があふれていた。

奥山信吾

◀スペイン内戦で日本人義勇兵死亡（7月11日）共和国防衛に参加の米人部隊所属ジャック白井（前列右）が、マドリード近郊で被弾。炊事兵や機関銃手をつとめ、37歳（推定）の果敢な人生を閉じた。

▼中国へ初の渡洋爆撃（8月15日）「上海事変」勃発後、大陸に基地のない海軍は九州と台湾の航空隊機を進発させ、1000キロ以上先の南京・南昌を爆撃し世界を驚かせた。写真は出発前の渡洋部隊。

「歴史写真」

毎日新聞社

◀ラジオ体操へ国民総動員（8月）文部省は7月に国民教化運動の一環として、8月を「国民身心鍛練運動」期間とするよう各方面に呼びかけた。これを受けて大阪では女給3000人が、そろいのワンピース姿で中之島広場に集まった。

昭和12年8月

1（日）●放送協会、天津から初の「前線放送」を中継。

2（月）●世界教育会議、東大で開催。四八カ国が参加。

3（火）●豊田正子『綴方教室』（中央公論社）刊行。

4（水）●在華紡績同業会理事長・船津辰一郎、外務省の依頼で対中和平工作に出発（船津工作）。

5（木）●全産連、加盟各団体に消費節約運動を指示。

6（金）●東京日日新聞社など募集歌に「進軍の歌」当選。佳作に「露営の歌」（9月20日レコード化）。

7（土）●軍に関する流言飛語には軍刑法適用と警視庁。

8（日）●中国駐屯軍、北平占領し入城式。

9（月）●国民軍兵士、上海陸戦隊の大山中尉らを殺害。

10（火）●精機光学工業（現キヤノン）発足、製品を「キヤノン・カメラ」として販売開始。

11（水）●英米仏伊の駐中大使、上海不戦区域化を提案。

12（木）●同志社大、国体明徴問題で具島兼三郎、田畑忍ら四教員を休・解職処分。

13（金）●上海で日中両軍が交戦（第二次「上海事変」）。

14（土）●「二・二六事件」の北一輝と西田税に死刑判決（19日磯部浅一、村中孝次とともに死刑執行）。

15（日）●日本政府、中国に「断固たる膺懲」と声明。
●陸軍、上海派遣軍編成（司令官・松井石根）。
●海軍航空隊、南京と南昌に初の本格渡洋爆撃。

16（月）●速達郵便が六大都市から全国に拡大される。

17（火）●米政府、上海の米人保護に陸戦隊派遣を決定。

18（水）●物品特別税（二割）でレコードが一円六五銭。

19（木）●軍需工場の熟練工不足で東京市が工業校新設。

20（金）●全国中等学校野球大会、野口二郎投手の中京商業が川上哲治投手の熊本工業を破り優勝。

21（土）●中ソ不可侵条約、南京で調印。
●満州映画協会、関東軍の指導下に設立。
●米内海相、第一号艦（「大和」）の製造を訓令。

22（日）●中国共産党紅軍、国民革命軍第八路軍に改編。総司令・朱徳（10月12日新四軍編成）。

23（月）●上海派遣軍の二個師団、強行上陸し総攻撃。

24（火）●閣議、国民精神総動員実施要綱を決定。

25（水）●前進座総出演の映画「人情紙風船」封切。監督の山中貞雄、召集受ける（翌年戦病死）。

26（木）●日本万国博覧会協会を設立。

27（金）●ブルム「幸福なる結婚」掲載の「婦人公論」発禁。

28（土）●トヨタ自動車工業設立。

29（日）●陸軍省、予・後備役将校を広範囲に現役復活。

30（月）●中国軍機、上海呉淞港外の米客船を誤爆。

31（火）●中国駐屯軍を「北支方面軍」（司令官・寺内寿一）に改編（9月15日保定作戦を開始）。

▶**内閣情報部発足(9月25日)**従来の内閣情報委員会を改組、専任の情報官をおき、各省を超えて言論統制と思想宣伝を行う、一元的機関として再スタートした。昭和15年、内閣情報局に昇格する。

◀**ムッソリーニ、ドイツを初訪問(9月25日)**独伊の独裁者が固い握手、相互支援を約した。写真はベルリンをパレードするムッソリーニとヒトラー(右)。100万を超す歓迎の市民が沿道を埋めた。

クロマート提供

▶**華北方面軍、保定占領(9月24日)**北平(北京)占領後の8月以降、中国軍を次々に撃破、11月には太原も落とし、「華北・山西平定」を達した。写真は太原への要衝・保定城で占領後休息する日本軍。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲**「あきれたぼういず」デビュー(9月)**東京・浅草の花月劇場に登場、ものまねや漫才のギャグを音楽で表現する「コミックバンド」の元祖となった。写真・手前は川田義雄、後ろ左から益田喜頓、坊屋三郎、芝利英。

毎日新聞社

▶**水谷八重子、守田勘弥と結婚(9月16日)**芸術座の女優で松竹看板スター(32)と美男歌舞伎役者(30)が、東京大神宮で出席者十数人の挙式。二人は娘・水谷良重を得たが昭和26年に離婚した。

▶**後楽園球場オープン(9月11日)**東京・小石川に竣工。2階建てスタンドを擁し、収容人員約3万人。開場式後、記念の職業野球選抜紅白試合が行われ、水原茂が新球場初の本塁打を左翼席に打ちこんだ。

毎日新聞社

昭和12年9月

1(水)●東京の中学入試科目は算術・読み方と決定。●松坂屋、軍の委嘱による酒保・食堂・宿舎経営のため華北・華中へ店員を派遣。

2(木)●閣議、「北支事変」を「支那事変」と改称。

3(金)●英軍艦二隻で初のレーダー使用開始。

4(土)●関東軍、チャハル省南部に察南自治政府樹立。●全米海員組合など、日本向け軍需品輸送拒否。

5(日)●近衛首相、「支那事変は長期戦も辞せず」と言明。●海軍省、全中国沿岸の封鎖を宣言。

6(月)●岸田国士・久保田万太郎ら、文学座を結成。

7(火)●日本海員組合、国際運輸労連を脱退。

8(水)●汎アラブ会議、シリアで開催。ピール提案拒否、ユダヤ人のパレスチナ移住中止を決議。

9(木)●南氷洋捕鯨を目的に極洋捕鯨(株)、設立。

10(金)●PCLなどが東宝映画を設立。松竹に対抗。

11(土)●後楽園球場、開場。紅白戦で水原茂が本塁打。

12(日)●水道使用は今夏最高の丸ビル五杯分と東京市。

13(月)●国民政府、国際連盟に日本の侵略を提訴(25日、日本政府は連盟の招請を拒否)。

14(火)●中央気象台の初の観測船「凌風丸」、完成。

15(水)●東京中心に関東防空演習が始まる(〜19日)。

16(木)●水谷八重子、一四代・守田勘弥と結婚。

17(金)●「朝鮮の舞姫」崔承喜、渡欧前に新作舞踏会。

18(土)●独から五輪ボブスレーコース建設指導者来日。

19(日)●海軍航空隊、南京を連続爆撃(〜25日)。

20(月)●大蔵省、外国劇映画の輸入全面禁止を通達。●新協劇団、築地小劇場で「アンナ・カレーニナ」上演。細川ちか子、小沢栄、滝沢修ら出演。

21(火)●内閣、ローマ字綴方を日本式に統一と決定。

22(水)●高文司法科試験で弁護士に初の女性合格者。

23(木)●中国で第二次国共合作が成立。

24(金)●内務省、「忘れちゃいやヨ」「二人は若い」などを「低調卑猥」と自発的原盤破棄を命じる。

25(土)●ムッソリーニ、初めて独を公式訪問。●警視庁、円タクの深夜の流し営業を禁止。●八路軍、平型関で日本軍を攻撃し第五師団の後続部隊一〇〇〇人全滅。

26(日)●日本・シャム(タイ)修好五十年記念祝賀会。

27(月)●不拡大派の石原莞爾、参謀本部から関東軍へ。

28(火)●国際連盟総会、日本の中国都市空爆非難決議。●閣議、外貨節約で海外留学・派遣の抑制決定。●矯風会など八団体が日本婦人団体連盟設立。

29(水)●石炭鉱業連合会、坑員に朝鮮人移入をと陳情。

30(木)●大牟田市で赤痢。三三三人が罹病(爆発赤痢)。

毎日新聞社

▲**気合いが入る軍事教練(10月)**政府は9月、国民精神総動員運動を提唱、「尽忠報国」「挙国一致」「堅忍持久」のスローガンを掲げ、「時局に対する覚悟」を国民に訴えた。中学や高校での軍事教練強化もその一環だった。写真は大阪市内を「完全装備」で行進する高校生。

松坂屋提供

▲**大人気の「支那事変展覧会」(10月)**高島屋など各デパートが陸・海軍省の後援でさかんに開催。日中戦争戦没者の遺品、戦利品、現場写真などを展示した。写真は松坂屋大阪店の初日。

▼**パリ万博日本館設計で坂倉準三がグランプリ(10月22日)**西洋近代と日本の伝統をみごとに融合した作品と絶賛され、この日受賞。坂倉(36)はル・コルビュジエに師事、デビュー作だった。

「歴史写真」

坂倉建築研究所提供

▲**蒙古連盟自治政府成立(10月28日)**日中戦争開始で華北のチャハル省と綏遠省を占領した関東軍が、モンゴル民族の独立運動を利用して樹立。首都を厚和(綏遠を改称)に定め、指導者の徳王(左)が副首席に就任した。

毎日新聞社

毎日新聞社

◀**米プロゴルファーのジーン・サラゼン来日(10月16日)**東京ゴルフ倶楽部・朝霞コースで19日、米プロ選手権、全英・全米オープン、マスターズの4大タイトルを獲得した妙技を披露、日本人ファンを喜ばせた。

▲**女学生の国防服(10月)**現大妻女子大創設者・大妻コタカが考案。セーラー服の上から着られるもんぺ式でフードもつき、戦時に向け経済性と機能性を兼ねた。「ホームライフ」11月号に掲載、普及につとめた。

昭和12年10月

1(金)●政府、小冊子「我々は何をなすべきか」一三〇〇万部を全国各戸に配布。朝鮮では斉唱を強制する「皇国臣民の誓詞」を制定、配布。●東京市、出征将兵の家につけるマークを配布。

2(土)●東京で酒類抜きの「非常時結婚式」。一人一円。

3(日)●ハワイ在住日本人からの献金四〇万円到着。

4(月)●大日本体育協会、総動員運動に努力と決定。

5(火)●米大統領、日独を侵略者と非難(隔離演説)。

6(水)●文学座俳優・友田恭助、上海戦線で戦死。

7(木)●ニュージーランド、日本向け屑鉄を輸出禁止。

8(金)●寿屋(現・サントリー)、特級ウイスキー「サントリー角瓶」を発売。

9(土)●参謀本部、主作戦を華北から上海に移転、杭州湾北岸の強行上陸決定(20日出動命令)。

10(日)●東京の公衆浴場で朝湯が禁止される。●東海道本線京都—明石間で電車の直通運転。

11(月)●商工省、綿花など輸入制限・贅沢品の輸入・軍需資材の輸出を禁止(初の物資統制)。

12(火)●国民精神総動員中央連盟、結成式。

13(水)●「国民唱歌」放送開始。第一回は前東京音楽学校教授・信時潔に作曲を依頼した「海行かば」。

14(木)●ローマ法王庁、反共のため日本支援を表明。

15(金)●出版懇談会設立。検閲当局への協力機関。

16(土)●ゴルフの四冠王・ジーン・サラゼン来日。

17(日)●東京・高島屋で「愛国国民服展覧会」開催。

18(月)●陸地測量部発行の大都市近傍図が販売禁止に。

19(火)●社大党、戦時体制遂行に関する政府激励決議。

20(水)●五〇トン以上の鉄材使用建築は軍需以外禁止。●英、激増するユダヤ人のパレスチナ移住制限。

21(木)●愛知県が県下三十余の女学校に愛国子女団を組織し軍事教練の実施を決定、と新聞に。

22(金)●坂倉準三設計のパリ万博日本館が設計賞受賞。

23(土)●陸軍省、東京陸軍航空学校の新設を告示。

24(日)●千葉県習志野で帝国訓練優勝犬競技大会開催。

25(月)●企画院官制公布。企画庁と資源局を統合。

26(火)●三菱重工長崎造船所、戦艦「武蔵」の製造価格を艦政本部に提出(価格交渉に入る)。

27(水)●神奈川県東神奈川駅で、軍用列車歓送中の国防婦人会員らが列車にはねられ二五人死亡。

28(木)●徳王ら華北で「蒙古連盟自治政府」を樹立。●スペイン政府、バルセロナに移転。

29(金)●東京・広島両文理科大学で日本国体学を新設。

30(土)●琵琶湖に白髭神社大鳥居が竣工し奉献祭挙行。

31(日)●アジア民族青年代表大会開催。一五民族参加。

▲4横綱が必勝祈願の土俵入り（11月3日）明治節（明治天皇の誕生日）のこの日、東京の明治神宮にうちそろって、力強く四股を踏みしめ「皇軍の戦捷」を祈願。左から武蔵山、玉錦、双葉山、男女ノ川。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲日本軍、杭州湾上陸（11月5日）約100隻もの大船団で、無防備の遠浅の海を歩いて上陸（写真）、上海の南にいたった。中国軍は背後をつかれて後退、8月以来の上海戦線は一気に打開され、11日には上海を占領した。

▶東京帝室博物館落成（11月10日）渡辺仁設計で上野公園に完成。鉄骨鉄筋コンクリート造り、広さは震災前の旧館の4倍、約2万5000平方メートル。東洋一の規模・設備となり、翌年11月開場した。

朝日新聞社

▶孤立する3国急接近（11月6日）日独防共協定にイタリアが参加、ローマで調印。写真前列右からチアノ伊外相、堀田大使、ムッソリーニ首相、リッベントロップ独大使。後に三国同盟に発展した。

毎日新聞社

▲タイガース、秋期リーグ初優勝（11月14日）「巨人キラー」西村幸生投手の活躍で圧勝。2シーズン制となったこの年の日本選手権も、4勝2敗で巨人を破り日本一に輝いた。

▶宮城で初の御前会議（11月24日）華中戦線の作戦計画を上奏、質疑応答はなく天皇も無言だった。左側が閑院宮参謀総長ら陸軍幕僚、右側が伏見宮軍令部総長ら海軍幕僚。

毎日新聞社

昭和12年 11月

1（月）●南海鉄道、女性乗務員を採用。

2（火）●「愛国行進曲」の懸賞募集歌詞（応募五万七七五七八件）の当選発表（翌年、大ヒット）。
●ベルリンでヘリコプターの公開飛行実施。

3（水）●小杉勇・轟夕起子主演「限りなき前進」封切。

4（木）●戦艦「大和」、呉海軍工廠で起工。

5（金）●第一〇軍、中国軍の背後をつき、杭州湾北岸に上陸（11日上海を占領、南京へ進撃開始）。

6（土）●伊、日独防共協定に参加。

7（日）●千葉県松戸でグライダー・模型飛行機競技会。

8（月）●中井正一ら「世界文化」グループ、一斉検挙。
●華北方面軍、山西省の要衝、太原を占領。

9（火）●閣議、企画院提案の国家総動員法制定を決定。

10（水）●東京帝室博物館（現・東京国立博物館）竣工式。

11（木）●西部防衛司令部（小倉）、九州・中国地方に空襲警戒警報を発令（初の空襲警報）。
●群馬県嬬恋村で山津波。一六三人死亡・不明。

12（金）●俳優・林長二郎（長谷川一夫）、松竹から東宝への移籍問題で顔を斬られ負傷。

13（土）●NBC交響楽団創立。指揮者・トスカニーニ。

14（日）●第一回全日本フェンシング選手権大会開催。
●プロ野球秋期リーグ戦でタイガース優勝。

15（月）●明治神宮など四神社で、七五三に軍服を模した祝い着を着た子が前年の三倍に増加。

16（火）●少額国債「愛国債権」、郵便局で販売開始。

17（水）●バンコク港建設の世界設計競技で日本優勝。

18（木）●大本営令公布。戦時設置を宣戦布告なき事変時でも可能と改正。日露戦争以来三四年ぶり。

19（金）●閣議、軍による大本営への首相参加拒否で、大本営政府連絡会議設置を決定。

20（土）●国民政府、首都を南京から重慶へ移転。

21（日）●日中戦争で犠牲になった軍用動物慰霊祭挙行。

22（月）●華北三省の自治政府、関東軍指導下に「蒙疆連合委員会」を結成。張家口に本部設置。

23（火）●国防スポーツ第一回競技会、西宮球場で開催。

24（水）●第一回大本営の御前会議を開催。

25（木）●京都府警、林長二郎事件で永田雅一を勾留。

26（金）●安井曾太郎ら一水会が第一回展、開催。

27（土）●政府、「華北農民救済」で綿花買い付け決定。

28（日）●全日本ホッケー選手権で慶大が京大破り優勝。

29（月）●関東軍参謀長・東条英機、中国国民政府と絶縁し、新中央政権の樹立を陸軍中央に上申。
●伊、「満州国」を承認。公使館開設を発表。

30（火）●日本赤十字、全国一七病院を戦傷病者専用に。

読売新聞社

▼東京逓信病院が竣工（11月4日）前年1月に、東京・麹町区に着工。設計・山田守、ベッド数は261、国産の最新医療具を設置。装飾を排した合理主義建築の傑作と言われた。

▲遺骨ばかりの凱旋（12月18日）2年前に満州（中国東北部）へ出征した静岡の歩兵第34連隊初年兵が帰還。上海派遣軍に編制された彼らの多くが、激戦で命を落とした。

▼第1次人民戦線事件起こる（12月15日）労農派理論家や合法政党・日本無産党関係者ら446人が治安維持法違反で一斉検挙、無産党は解散させられた。前日、おもな検挙予定者15人の顔写真が同盟通信社から配信された。右上・鈴木茂三郎、中上・向坂逸郎、中上から4人目・荒畑寒村、左上から二人目・大森義太郎、左下から上へ加藤勘十、山川均。

土門拳

▲南京占領の日の銀座（12月13日）東京では昼は旗行列、夜は提灯行列でにぎわった。写真家・土門拳（28）は松坂屋百貨店前で祝賀パレードを待つ市民の表情を撮影。大虐殺の報道はなかった。

▼東京帝大教授・矢内原忠雄辞職（12月1日）「中央公論」9月号で大陸政策批判の論文が検閲で処分を受け、教授会も非難決議したため。写真は最後の講義。「精神を殺すなかれ」と述べ拍手をあびた。

毎日新聞社

◀新橋の地下鉄工事現場でガス爆発（12月21日）午前11時頃、地上に猛炎が吹き出し、約3300平方メートルが陥没、6店舗を全焼、3人が重傷を負った。この事故で渋谷までの全通は1年遅れ、昭和14年1月になった。

朝日新聞社

昭和12年 12月

1（水）●東大教授・矢内原忠雄、大陸政策を批判した論文「国家の理想」により、辞表提出。

2（木）●商工省、生ゴム全面統制を実施。配給制に。

3（金）●朝鮮総督府、「御真影」を各校に配付、礼拝強制。

4（土）●少年満州移民四ヵ年計画作成されると新聞に。

5（日）●春日庄次郎ら、大阪で日本共産主義者団結成。

6（月）●自由学園生徒、ニューヨークで手芸品即売会。

7（火）●木村義雄、将棋名人位獲得（以後一〇年保持）。
●職業野球初の日本選手権でタイガース優勝。

8（水）●大阪の四ツ橋文楽座、ニュース映画館となる。

9（木）●出征軍人の婚姻届は死亡後も有効と内務省。

10（金）●教育審議会、設置。文教審議会を廃止。

11（土）●伊、国際連盟を脱退。

12（日）●日本海軍機、米砲艦を撃沈（「パネー号」事件。14日政府が謝罪、賠償金を支払い解決）。
●木次線全通し山陽・山陰本線がつながる。

13（月）●中華方面軍、南京占領（10日に総攻撃開始。17日入城式。南京大虐殺起こる）。

14（火）●北平で日本軍の傀儡、中華民国臨時政府成立。

15（水）●山川均・加藤勘十・猪俣津南雄・向坂逸郎ら労農派四百余人検挙（第一次人民戦線事件）。

16（木）●東京地裁、帝人事件一六被告全員に無罪判決。

17（金）●日本百貨店組合、創立総会。七〇店が出席。

18（土）●青島で日本人経営工場焼き打ち、戒厳令布告。

19（日）●東京六大学野球理事会、年二シーズン制、各校二回総あたり制を決定。

20（月）●和歌山県南富田小で夕方から日中戦争のニュース映画上映中に火災。八〇人が死亡。
●大本営、華南攻略作戦を海軍の反対で中止。

21（火）●警視庁、高音取締規則公布。ラジオなど対象。

22（水）●関西角力協会、解散。大相撲の東西分裂が終結。
●内務省、日本無産党・全評に結社禁止命令。

23（木）●帝国ホテル、晩餐会・舞踏会を廃止と発表。

24（金）●新協劇団、「国情にそった」演劇に方向転換。

25（土）●徳永直、「太陽のない街」など自著を絶版に。

26（日）●華北方面軍、済南を占領。青島攻略作戦開始。

27（月）●日本産業、満州重工業開発に改組。日産コンツェルンの中枢が満州に移転。
●綿製品・スフ等混用規則（三割以上）公布。
●京大文学部に日本精神史講座が設置される。

28（火）●金製品製造、表装・広告用の金箔使用を禁止。

29（水）●鉄道省、遺骨移送列車に「英霊」マークつける。

30（木）●東京市バス、初の木炭バス四台を運行開始。

31（金）●伊勢神宮初詣で臨時列車運転。寝台車は廃止。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語
浪曲師・広沢虎造の名文句

「馬鹿は死なきゃなおらない」。
広沢虎造の浪曲「次郎長外伝」で、だまし討ちにあった森の石松が、死に際にみずからを自嘲して言う台詞。この年、ラジオで放送されてからいっきょに広がった。軍の横暴ぶりはますますひどくなり、戦争は拡大する一方、そんな中ではけ口のない庶民の心情にピタッとマッチしたからと言われる。

「湖底の村」。石川達三の小説『日陰の村』で使われた言葉。小河内ダムの建設で湖底に沈む村と、荒廃していく村人の姿を描いたルポルタージュ小説だが、巨大な権力に抑圧された人々の、鬱屈した心情が共感を呼んだ。

「トーチカ」。昭和一二年八月に勃発した「第二次上海事変」で、日本は中国が設けたトーチカ（コンクリート製の陣地）にさんざん悩まされた。これが転じて図々しい奴、心臓の強い奴をトーチカと呼ぶようになった。

「熊公焼き」。この頃東京で、大きなドラ焼きの皮の中にあんこを入れて巻き、こんがりと焼き上げた"あん巻き"が流行、特に女学生に人気があった。熊公は東京・神楽坂の屋台の店で、ここのあん巻きはおいしいというので、あん巻きの代名詞となった。

▶金属玩具の輸出は、この年ピークを迎えた。隆盛期を象徴する人気商品「幸福時代」。

T. KITAHARA COLLECTION

子ども
医大は幽霊の宝庫 小学生に怪談流行

小学五年生（昭和一二年）頃、私たちが戦争ごっこやターザンごっこと同じくらい熱中したのが幽霊の話でした。薄暗くなって戦争ごっこなどができなくなると、みんなで街灯の下に集まり、自分が見たり聞いたりした幽霊の話を報告しあうのです。その中で、幽霊の舞台としてしばしば登場したのが久留米医大でした。タクシーが医大から客を乗せたところ、いつの間にか客の姿が消え、シートには血がべっとりついていたとか、客から「墓地まで行ってくれ」と言われて行くと、墓石の中にスーッと消えて行ったという話を、みんなで恐ろしそうに聞き入っていたものです。子ども心に、医大というのは恐ろしい手術をするところであり、地下には死者を集めた部屋がいくつもあると信じていましたから、幽霊話の舞台としていかにもふさわしかったのです。友だちの話が迫真力にあふれていた夜など、恐ろしくて眠れないこともありました。

（佐々川公浩『筑後川のほとりで七〇年』）

CM100年
新聞CM「秋口の衛生　殊に…慰問袋には　一番役立つ　消化と毒けしの仁丹」（森下仁丹）

秋口の衛生
殊に…慰問袋には
一番役立つ 消化と
毒けしの仁丹

敵弾除けの護符
捨拾捨捨

慰問袋
大懸賞

慰問袋用
仁丹は

純銀容器

▲仁丹は、婦人雑誌の"慰問袋の参考例"にも登場する戦地の必需品だった。

教育
無作法な女学生のために 文部省が薦める行儀作法

女学生の間で女だてらに「キミ」「ボク」といった男言葉を使ったり、男のようにわざと無作法にふるまうことは、広がりこそすれ、いっこうに消え去る気配がない　最近「この風潮をこのまま見すごしにしておくわけにはいかない」という機運が全国的に高まっているが、その声にこたえるために文部省が本格的な作法教育に乗り出すことになった　具体的な内容はまだこれからだが、昔の小笠原流のように二つ指ついて……というのではあまりに煩瑣で、かえって女学生の反発を買うというので、敬礼を基本とした会釈、普通礼、最敬礼を精神をこめて十分にできるようにしたいという。

（「大阪朝日新聞」六月一三日）

◀那須良輔のデビュー作「のんきな殿様」が、「日本少年」新年号の付録に登場。

日本漫画資料館提供

はやり歌

別れのブルース
作詞　藤浦　洸
作曲　服部良一

窓を明ければ　港が見える
メリケン波止場の　灯が見える
夜風　潮風　恋風のせて
今日の出船は　どこへ行く
むせぶ心よ　はかない恋よ
踊るブルースの　切なさよ

胸にいかりの　入れずみほって
やくざに強い　マドロスの
お国言葉は　違っていても
恋には弱い　すすり泣き
二度と逢えない　心と心
踊るブルースの　切なさよ

福田俊二提供

▶後に「ブルースの女王」と称された、淡谷のり子のヒット曲。発売から半年後、満州の兵士たちの間で人気に。

青い背広で
作詞　佐藤惣之助
作曲　古賀　政男

青い背広で　心も軽く
街へあの娘と　行こうじゃないか
紅い椿で　瞳も濡れる
若い僕等の　生命の春よ

お茶を飲んでも　ニュースを見ても
純なあの娘は　仏蘭西人形
夢を見るよな　泣きたいような
長いまつげの　可愛い乙女

今夜言おうか　打ち明けようか
いっそこのまま　諦めましょか
甘い夜風が　とろりと吹いて
月も青春　泣きたい心

駅で別れて　一人になって
あとは僕等の　自由な天地
涙ぐみつつ　朗らに唄う
愛と恋との　一夜の哀歌

◀古賀政男が作曲した曲を、藤山一郎が軽快に歌って、戦争とはまったく無縁の明るい雰囲気が歓迎された。

朝日新聞社

▲デパートの化粧品売り場などに、実演嬢を派遣する販売法が定着。

三面記事
"天国の指定席"を販売

（ルーマニア発）ワインの産地で知られるルーマニアのベッサラビアで、ひそかに"天国の指定席"を販売していた牧師が逮捕された。この牧師、迷信深い人が教会にやって来ると、裏の部屋に誘いこみ、「大天国地図」という代物を広げて、あの世へ行ってからの座席券を売っていた。地図の中心には神さまが描かれていて、その前の席は細かく分類され、ひとつひとつに番号がついている。神様に近い"かぶりつき"は目の玉が飛び出るような高さで、後方の"普通席"でも日本円で三〇円だった。"かぶりつき"は王様や貴族用と称して、村人には売らなかったという。
あまりに人気が高くなったため、警察の耳に入ったのだが、「大天国地図」は数枚あり、いずれも"予約済"のマークが大量に捺してあったところから、被害者は数千人に達する見こみである。

（「話」四月号）

レジャー
名古屋にやって来る 世界最新"人造人間"

（名古屋発）三月一四日開幕の「名古屋汎太平洋平和博」の目玉として、市民の期待を集めている"人造人間"が、ハンブルクから名古屋に向け船出した。この"人造人間"の皮膚は透明な材質で作られており、身体の臓器や血液、筋肉は色も形も本物そのまま、しかもボタンひとつでそれらの動きを見ることができる。実物は世界でもニューヨークとドイツ、それに名古屋に来るものの三つしかなく、特に今度来るものは構造も複雑で優秀、世界最新だという。

（「新愛知」二月九日）

◀車による移動郵便局。職員一〇人が乗りこみ、郵便物の引き受け、電報などの業務をこなした。

警察
犯罪捜査の決め手に 特注の自転車を配給

警視庁管下の八三八の全派出所に、二二日から自転車が一台ずつ備えられた。これまで派出所の警官は事件発生の訴えに接しても、佩剣をジャラつかせながら徒歩で現場に駆けつけており、スピード時代の犯罪からおき去られがちだった。そこで警視庁では一〇〇〇台の自転車を特注、このほど派出所に配備したものである。

（「東京朝日新聞」六月二三日）

データ
最高は一日三六一七人 公衆便所の利用調査

東京市内には公衆便所が二五〇カ所あり、市が一日当たりの利用調査を行った。まず一日の全利用者は一七万三八一二人で、男性が一六万三四〇三人、女性一万四〇九人と、男性が女性の約一一・六倍。利用者数のベストスリーは次のとおり。
①浅草公園六区、三六一七人。
②上野公園下、三二九七人。
③日比谷公園入り口、二九七八人。
なお利用者が最も少ないのは隅田四丁目で、一日の全利用者は五六人だった。

（『大東京年鑑』昭和一二年版）

この年の初もの
阪急グループが月に 五〜八円の妻帯手当

●室内陸上競技会　三月に、大阪キリスト教青年会体育館で開催された。
●投資信託　七月、藤本ビルブローカー証券が有価証券投資組合を結成したのが最初。
●女性弁護士　明治大学在学中の田中正子（二八）が合格。女性弁護士の資格は前年から設けられていたが、一年目は全員落第。二年目は一八人受験して、彼女だけ受かった。

▲日本交通公社の前身「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」発行の「満州汽車時間表」。

世界の動き

「アメリアは日本軍に処刑された？」世界一周飛行中に太平洋上で行方不明に “A・イアハート遭難事件”の真相

▶アメリア・イアハートと愛機エレクトラ。世界一周飛行に飛び立つ前日撮影。 ジャック岩田 共同通信社

女性飛行士のパイオニアで米国の英雄、アメリア・イアハートが、世界一周飛行の途中で消息を絶った。米海軍はただちに空母「レキシントン」を出動させるなど大がかりな捜索を行ったが、彼女は発見されないままだった。ところが日米開戦後、「アメリアは日本軍に処刑された」というキャンペーンが始まる……。

◀世界一周に備えて、サンフランシスコのゴールデンゲート・ブリッジ上空をテスト・フライト。

「国際写真新聞」

悲痛な声の無線を最後にアメリアは消息を絶った

「イアハート機 ハウランド島近海に不時着 沿岸警備隊が捜索を開始」

一九三七年七月三日、アメリカの新聞各紙は、女性飛行士アメリア・イアハート（三九）の遭難を大々的に報じた。彼女は、航空士フレッド・ヌーナン（四四）とともに、新鋭双発機ロッキード・エレクトラで赤道を中心とする全航程二万九〇〇〇マイルの世界一周飛行の途中だった。

二人は六月一日にマイアミを出発。南大西洋、アフリカ大陸、インド、ビルマ（現・ミャンマー）、ジャワ島などを飛び石のように経由して、ニューギニア北東部のラエに到着したのは、出発から約一カ月後のことだった。残りはあと七〇〇〇マイル。七月四日の合衆国独立記念日にはこの世界一周を完了し、アメリカ西海岸のオークランドに凱旋する予定だった。ところがラエで天候不順に見舞われ、二日間の足どめをくい、スケジュールはギリギリだった。二人は焦りを感じていた。

七月二日午前一〇時、ようやくラエから飛び立ち、次の目的地、太平洋上の孤島・ハウランド島へ向かった。この島は長さ一マイル半の小島で、広い太平洋上で見つけるのは簡単ではなかった。しかもラエ―ハウランド島間は二五五六マイルというこれまでの飛行中でも最も長い、きわめて困難な飛行だった。アメリアは最長航程にあたってエレクトラ機に一一五一ガロンの燃料を積みこみ、機体を少しでも軽くするため、パラシュートにいたるまで、不要な積荷はすべておろしていた。

到着予定時刻はハウランド時間で同日の午前六時三〇分。約一八時間のフライトの予定だった。ハウランド島では沿岸警備隊の巡視船「アイタスカ」が待機し、アメリアからの無線連絡を待っていた。アメリアから、「視界不良」「あと、およそ二〇〇マイル」「あと、一〇〇マイル」との無線交信の後、到着予定時刻をすぎても連絡がない。無線室に不安が広がる中、午前七時四二分に「そちらの頭上にいるはずなのに島を発見できない。燃料も底をついてきた」との無線が入った。さらに一六分後には、「旋回中だが、島は見つからない。そちらの通信も聞こえない」という取り乱した声の連絡が入る。そしてついに、午前八時四三分、「我々は北方の方位をさぐっている」という言葉を最後に、アメリアは消息を絶ったのだ。

「アメリア行方不明」の報にアメリカ国民は大きな衝撃を受け、ニュースは世界を駆けめぐり、空母まで動員したアメリカ海軍の大がかりな捜索が開始された。遭難場所が当時、日本の南洋群島委任統治領近くの可能性もあったため日本政府も捜索に協力。しかしイアハートの行方は不明のまま、捜索は七月一九日に打ち切られた。

◀この年三月、アメリアは世界一周の最初の試みに失敗し、ホノルルからオークランドに引き返している。右は航空士・ヌーナン。

「国際写真新聞」

日米開戦後に浮上した日本軍による処刑の噂

アメリアは女流飛行家のパイオニアとして多くの飛行記録を書き替えてきた。一九三二年には初の女性単独大西洋横断に成功し、五年前に同じく大西洋横断をはたしたリンドバーグにちなんで、「レディ・リンディ」と呼ばれる国民的英雄となっていた。

“アメリア遭難”が新たな形で急展開したのは、一九四一年の太平洋戦争勃発後だった。「アメリアは日本の南洋群島委任統治領の上空をスパイ飛行したため、日本軍に処刑された」という噂が流されたのである。真珠湾奇襲の記憶も新たな時に、突如浮上した「日本軍の蛮行」に

英国外交官夫人がスケッチした魔法の城「東京の百貨店」

——佐伯　修

「東京には大きな百貨店が六軒あり、ほとんどが七階建てです。店に入ったらまず屋上まで上がって、遠くまで広がる東京の町を眺めるととても気分がいいものです。ベンチがあるので休憩できますし、客を楽しませるために猿の檻を置いている店もあります。お上りさんたちは必ず屋上にやって来て、私たち外国人を見ると猿を見たときのように興奮します。屋上など珍しくない都会の人たちも子どもを連れてやって来て一休みしていきます」（大久保美春訳）

外交官だった二度目の夫とともに、昭和三年から一四年まで、足かけ一二年間東京で暮らしたイギリス人、キャサリン・サンソム（一八八三～一九八一）は、この年に刊行したエッセイ『東京に暮す』の中で、昭和初期の東京における小市民の消費生活の「魔法の城」、デパートをスケッチしている。

「百貨店の主要な役目は日本人の購買意欲を掻き立てて、昔からある日本の商品はもちろん外国の商品や日本で作った外国風の商品をも買いたくさせることです」「日本人はお金を使うことが好きですし、最新の流行を追いたいという欲望が強い国民です」「たくさんの品物を買って日本人は一体どうするのか私にはさっぱりわかりません。

『東京に暮す』岩波書店提供

▲夫ジョージは、『徒然草』を英訳。

しかし、どの店にも並んでいるたくさんの役に立ちそうなもの、可愛らしいもの、全く役に立ちそうもないもの、信じられぬほど奇妙なものが売れるということは、すっきりしていて何もないように見える日本の家にも巨大な収納袋が隠されているということになりますが、この点は謎です」

彼女は、階段の踊り場のベンチから、催し物会場、仏具売り場、家具売り場、寝具売り場、呉服や和装小物売り場、ベビー服売り場、靴売り場、食品売り場に地下の特売場……というぐあいに店内をめぐるが、そこには、下駄と靴、畳と椅子、和服と洋服、筆とペンといった、和洋「二つの文明の中を泳ぎ廻る勇敢な日本人」の「うっかりして水の中を歩いたり陸の上を泳ごうとしてしまう両生類のような」暮らしぶりが現れている。

さて、デパートへ買い物に来た家族連れの、くつろぎの場と言えば大食堂が定番。「メニューは和食に限りません。ガラスケースの中にはビーフシチュー、カツレツのグリーンピース添え、プリン、チーズやバターとクラッカーなどの洋食も並んでおり、一つ一つにカタカナで名前が書いてある」

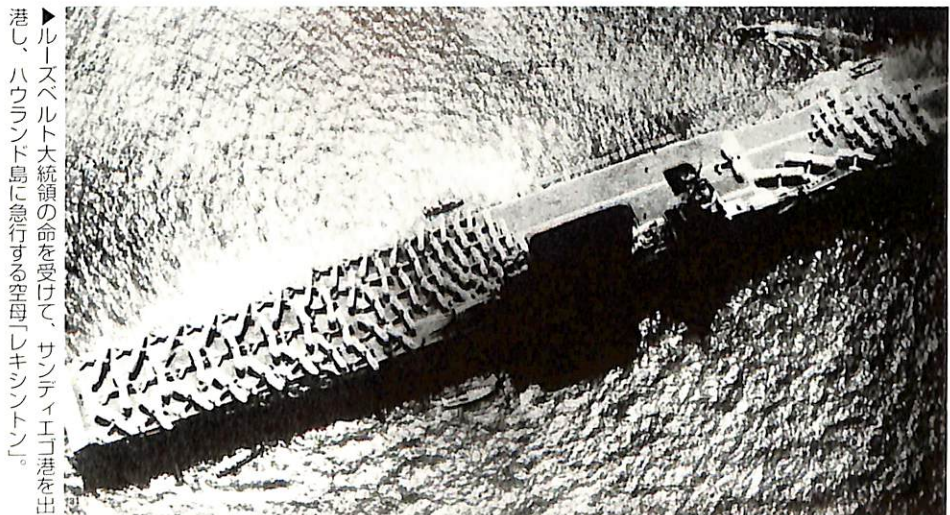
しかし、数年後、東京の小市民たちは、せっかく味をおぼえたビーフシチューやプリンを奪われ、空腹にあえぐ運命にあった。

米国民の憤激と敵がい心は燃え上がった。結果的に第二の「リメンバー・パールハーバー」の役割をはたしたのだ。一九四三年には、その説に基づいた戦意昂揚映画「自由への飛行」が作られた。「日本軍関与説」を打ち出す単行本は三〇点にものぼり、ベストセラーとなったものすら出た。そして米国民の多くは、今も日本軍関与説を信じているのが実状だ。

こうした中で、現在なおアメリア事件の真相解明を続けている米国の民間団体がある。「タイガー」と呼ばれるこのグループは、一九八九年以降三次にわたる現地調査を実施。そして一九九二年三月、「タイガー」は「アメリアは不時着死したことが証明された」と発表したのである。「タイガー」の調査を支援した、元日本貿易振興会理事長の赤澤璋一氏は、こう言う。

「アメリアは、目的地・ハウランド島の四〇六・二五マイル手前にあるキリバス共和国のニクマロロ環礁で不時着した後、脱水状態で死亡したというのが『タイガー』による調査の結論でした。その証拠のひとつとして現地で発見されたアメリア機と思われる機体の一部と、女性物の靴底なども公開しています。機体番号は確認できませんでしたが、その機体の一部がロッキード・エレクトラのものであることはスミソニアン国立航空宇宙博物館の復元部長が確認しました。さらに当時、遭難空域を飛行した同型機は記録されていないので、他機の可能性はありません。日本の汚名は今やっと晴れたのです」

事件当時から、アメリア機が積みこんだ燃料と、日本の南洋群島委任統治領を迂回する距離を考えると、スパイ飛行説はありえない、とする冷静な議論もあった。が、「戦時中のセンセーショナルな論調に駆逐されてしまった」、と赤澤氏は言う。「タイガー」は今後もニクマロロ環礁での調査を続けるという。“今世紀最大のミステリー”に完全な終止符が打たれる日も近そうだ。

アメリア・イアハート（1898～1937）
一九二三年、米国人女性として初めて国際航空連盟のライセンスを取得。一九三二年の単独大西洋横断は、夫のG・パトナムに支えられて成功した。

▶ルーズベルト大統領の命を受けて、サンディエゴ港を出港し、ハウランド島に急行する空母「レキシントン」。

往きて還らぬ

▲1月24日　森永太一郎(71)
実業家。森永製菓の創設者。明治32年森永西洋菓子製造所を設立。森永ミルクキャラメルなどヒット商品を生んだ。

▲2月1日　河東碧梧桐(63)
俳人。明治42年『日本俳句鈔』刊行。自由律俳句を作り、俳句の革新運動を行う。ほかに『碧梧桐句集』など。

▲5月23日　J・ロックフェラー(97)
米の富豪。1870年スタンダード石油会社創設。石油業の独占支配で巨利を得、1913年ロックフェラー財団を設立。

▲6月7日　ジーン・ハーロー(26)
米の女優。1931年映画「地獄の天使」でデビュー。グラマーな肉体で全米のセックス・シンボルになるが、急死。

▲6月19日　J・M・バリー(77)
童話劇「ピーターパン」(1904)を生んだ英の劇作家。「屋敷町」「あっぱれクライトン」などの喜劇でも人気を集めた。

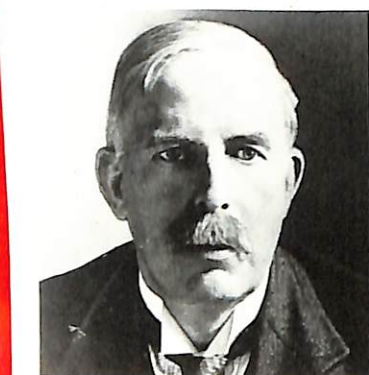
▼7月21日　菊竹淳(56)
ジャーナリスト。号は六鼓。明治三六年福岡日日新聞社入社、一貫して軍国主義批判の論説を掲げ続けた。

菊竹家提供

▲7月26日　内田良平(63)
右翼のリーダー。明治34年黒竜会を結成。日露戦争後は日韓合邦運動を展開。昭和6年大日本生産党を設立。

▲9月2日　P・クーベルタン(74)
仏の教育者で、近代オリンピックの創始者。1894年国際オリンピック委員会を設立。1937年まで会長をつとめた。

毎日新聞社

◀10月6日　友田恭助(37)
俳優。新劇で活躍し、昭和七年妻の田村秋子と築地座を結成。一二年文学座設立後に召集、上海で戦死。

▲10月19日　E・ラザフォード(66)
放射線のα、β線を発見した英の物理学者。1902年原子の自然崩壊説を発表、1908年ノーベル化学賞受賞。

▲10月22日　中原中也(30)
詩人。昭和9年『山羊の歌』を刊行。独特の語調とリズムを持つ詩風で、死後人気を集めた。『在りし日の歌』ほか。

▲11月5日　木下尚江(68)
社会運動家。明治30年日本初の普通選挙運動を行い逮捕。32年毎日新聞社入社、足尾の鉱毒問題で論陣を張る。

週刊 YEAR BOOK 1938 昭和13年 日録20世紀 224 ¥560 講談社

女優・岡田嘉子「赤い恋」の悲劇
創意工夫!「代用品時代」がやって来た
エンタツ、アチャコら爆笑問題「笑わし隊」前線へ
幻の東京オリンピック!

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第50号 2月10日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1938［昭和13年］

●特集
泥沼化する日中戦争に夢と消えた! 幻の「第12回・東京オリンピック」／日ソ国境を越えた「赤い恋」の悲劇 女優・岡田嘉子の〝虚構の一〇年〟／創意工夫で「大豆繊維の洋服」考案 「代用品時代」がやって来た!／エンタツ、アチャコに金語楼 爆笑慰問団「笑わし隊」前線に

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…日本軍、青島占領（1月10日）／第一期将棋名人に木村義雄八段（2月11日）／ヒトラー、オーストリア併合（3月13日）／満蒙開拓青少年義勇軍、第一歩（4月16日）／岡山県津山の三〇人殺し（5月21日）／阪神大水害（7月5日）／「ミュンヘン協定」成立（9月30日）／トヨタ、初の大衆車量産工場完成（11月3日）

●人物クローズアップ
淡谷のり子と「雨のブルース」

●決定的瞬間
〝生きた化石〟シーラカンス発見!

●美の出会い
野口久光の傑作〝映画ポスター〟

●女たちの肖像…モルガンお雪、里帰り／勝者・敗者…中島治康、プロ野球初の三冠王／証言・あの日この日…三島佑一、朝永振一郎／「現場」を歩く…軽井沢町、「満州国分村の村」／20世紀博物館…クツのオーツカ資料館（神奈川）／外から見たNIPPON…蔣君輝と「南京大虐殺」

●ベストセラー…『麦と兵隊』／スターと名場面…田中絹代、上原謙「愛染かつら」／モノ語り'38…「固形インキ」「ユベラ球」

■既刊好評発売中（既刊49冊! 1940・1950・1960・1970年代がそろいました）

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九六〇年代
第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第5号1963［昭和38年］ 第2号1964［昭和39年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第4号1970［昭和45年］

一九七〇年代
第29号1971［昭和46年］ 第7号1972［昭和47年］ 第30号1973［昭和48年］ 第31号1974［昭和49年］ 第32号1975［昭和50年］ 第9号1976［昭和51年］ 第33号1977［昭和52年］ 第34号1978［昭和53年］ 第35号1979［昭和54年］ 第8号1980［昭和55年］

最新刊
第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］

■今後の刊行予定
▶第51号1939［昭和14年］2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発
▶第52号1940［昭和15年］2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●「贅沢は敵だ!」、統制強まる●日独伊三国同盟締結●〝海の狼〟Uボート
▶第53号1981［昭和56年］3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●「残留孤児」来日●「窓ぎわのトットちゃん」●「フルムーンパス」大ヒット
▶第54号1982［昭和57年］3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●三越「秘宝展」騒動●日米コンピュータ戦争●ブレジネフの〝失意と死〟
▶第55号1983［昭和58年］3月17日発売
東京ディズニーランド誕生!●大韓航空機撃墜事件●「荒れる教室」●ドラマ「おしん」が高視聴率獲得
▶第56号1984［昭和59年］3月24日発売
冒険家・植村直己の死●「かい人21面相」は闇に消えた!●「風の谷のナウシカ」●アフリカの飢餓

ミニ事典

1937年のキーワード

白白教事件
大正一二年（一九二三）頃創始の、京城（ソウル）を本拠にした新興教団。儒・仏・仙の三道を総合したとする教義を掲げたが、入信者の財産は没収、女性信徒は幹部の愛人にし逃亡者は次々に惨殺、三八一人を山中に埋めていた。教主・全竜海は二月二六日逮捕後逃走、三月下旬に自殺した。「朝鮮独立」をうたって極秘に布教、独立後は全員を官吏にするなどと勧誘したため、恐慌下の農村部で急速に広まっていた。

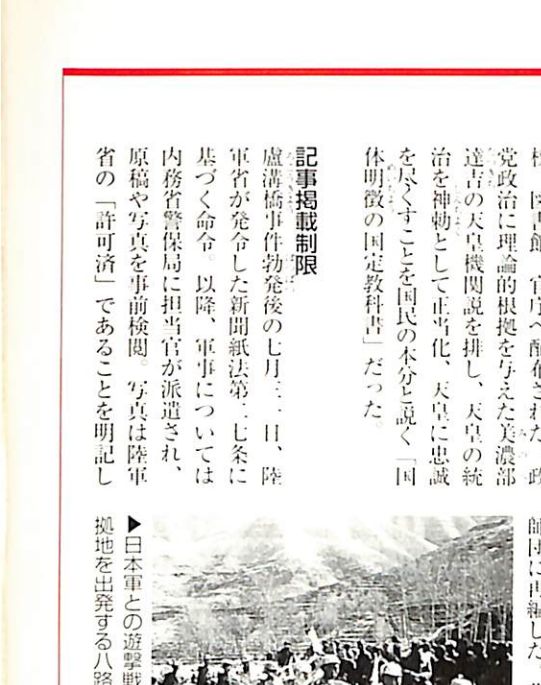
「国体の本義」
文部省が皇国史観に基づく国体論を国民向けにわかりやすく解説したもの。A5判一五六ページ。五月三一日、三〇万部が発行され、全国の学校、図書館、官庁へ配布された。政党政治に理論的根拠を与えた美濃部達吉の天皇機関説を排し、天皇の統治を神勅として正当化、天皇に忠誠を尽くすことを国民の本分と説く「国体明徴の国定教科書」だった。

記事掲載制限
盧溝橋事件勃発後の七月三一日、陸軍省が発令した新聞紙法第二七条に基づく命令。以降、軍事については内務省警保局に担当官が派遣され、原稿や写真を事前検閲。写真は陸軍省の「許可済」であることを明記しなければならなくなった。新聞はそれまでの事後検閲に加え、二重の検閲を受けることになり、戦争に関する記事は伏せ字だらけになった。

毎日新聞社

▲7月25日、海軍の上陸作戦を撮影した写真が「不許可」になり、上陸用舟艇を除去・修整することで掲載が認められた。

鉄鋼飢饉
軍拡で増大した需要によって生じた世界的な鉄鋼の品不足と価格の高騰。特に軍艦建造ラッシュの影響は大きく、この年、鉄材は一トン九〇円から二〇〇円にまで高騰。最大の屑鉄輸出国だった米国が国内需要の増大で輸出枠を減らしたため、品不足も深刻だった。近衛内閣は鉄鋼の輸入関税を撤廃、八月一三日、鉄鋼業の保護育成を目的とする製鉄事業法を公布、難局打開をはかった。

八路軍
国民革命軍第八路軍の略称。第二次国共合作による抗日統一戦線結成にあたり八月二二日、華北の共産党紅軍主力・四万五〇〇〇人を一軍三個師団に再編した。華中と華南で、一〇月組織した新編第四軍（軍長・葉挺）とともに、抗日戦の主力部隊として活躍した。総司令・朱徳。蔣介石の国民党が自己の統制下におこうとしたが、終始、独自性を堅持、戦後の内戦では人民解放軍の中心となった。

▶日本軍との遊撃戦のため、華北の根拠地を出発する八路軍の部隊。

国民精神総動員運動
日中戦争開始後に第一次近衛内閣が起こした戦争協力の国民強化運動。略称、精動運動。九月二二日「強調週間実施要綱」を閣議決定、積極的な戦争参加を行うように社会風潮を一新、生活を刷新するさまざまな運動が起こされた。一〇月、内閣の外郭団体として民間の七四団体が参加して国民精神総動員中央連盟を結成、本格的な運動を始めた。昭和一五年に大政翼賛会に引き継がれた。

毎日新聞社

▲10月12日、日比谷公会堂で国民精神総動員中央連盟の発会式が開かれた。

日本婦人団体連盟
女性の権利獲得に取り組んできた団体が大同団結した婦人運動組織。九月二八日に設立。婦人同志会（会長・吉岡弥生）、婦選獲得同盟（総務理事・市川房枝）、全国友の会（代表委員・羽仁もと子）、日本基督教婦人矯風会（会頭・ガントレット恒子）など八団体が参加し会長にはガントレットが就任。かっての革新的女性闘士が国民精神総動員運動に協力、国策の渦に巻きこまれていった。

企画院
省庁間を調整しながら戦時経済政策を担った内閣直属の機関。一〇月二五日官制公布、初代総裁・滝正雄。企画庁と資源局が統合して発足した。総力戦遂行のため、企業に対して国家の統制強化をめざす国家総動員法、電力管理法などを軍とともに立案・推進したが、経済界はソ連式経済だとして強く反発。昭和一六年には「赤」として関係者が検挙される「企画院事件」を引き起こした。一八年に軍需省に再編された。

国防体育運動
青年の体位向上、愛国精神の育成を目的に大阪毎日新聞社が提唱した体育を通じた国民運動。その具体策として一一月二三日に大阪の全青年学校が参加し、兵庫県の西宮球場で国防スポーツ第一回大会を開催した。選手は背嚢を負い、帯剣した姿で出場、個人より団体競技を主とした。一組三人で行う手榴弾投げを含む三種競技、一組四名で弾丸箱を運ぶリレーなど。たちまち全国に普及し戦時下の「花形」スポーツになった。

人民戦線事件
一二月一五日と翌年二月一日の二次に分け、人民戦線運動を企図したとして行われた左翼弾圧事件。日本無産党の加藤勘十、鈴木茂三郎、社会大衆党の佐々木更三ら政党幹部や、大学教授・理論的指導者の向坂逸郎、大内兵衛、有沢広巳を中心に左翼活動家ら四八四人が全国で根こそぎ検挙された。無産党と労組の全評も解散を命じられ、合法的な反戦・反ファシズムの声は強引に封殺された。

スフ（人造繊維）
ステープル・ファイバーの略。一般的にはパルプを原料とする化学繊維から作られた紡績用の繊維のこと。昭和八〜九年に本格生産が開始された。一二月二七日、商工省は綿製品・スフ等混用規則を公布してスフの三割以上混用を指示、軍需品である綿製品の供給を規制、その代替品としてスフを積極的に勧めた。しかし、水や摩擦に弱く、値が割高だったため粗悪品の代名詞となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1937

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利・渡邉裕）
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エー・ビー・シープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 ジャック岩田 梅本忠雄 大江正治 岡本俊郎 奥山信吾 乙咩雅一 影山光洋 影山智洋 菊竹家 北原照久 熊谷元一 サム・シーア 但馬一憲 土門拳 西島江衣子 服部昌一郎 林成年 福井正夫 福田俊二 三ツ澤正治 村瀬あや 村瀬守保 横堀洋一
朝日新聞社 岩波書店 海人社 共同通信社 クロマート（CORBIS BETTMANN） 国際フォト 中国新聞社 PPS opperfoto 毎日新聞社 文殊社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 坂倉建築研究所 松坂屋 マツダ映画社 丸井 マルヘル堂 ヤナセプロ
大宅壮一文庫 川喜多記念映画文化財団 呉市企画部海事博物館推進室 中国文化省 東京国立近代美術館 東京国立博物館 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本美術家連盟 日本漫画資料館 野球体育博物館図書室 立命館大学国際平和ミュージアム

145品、書けました。

世界初、激細で蛍光カラー

●新開発バイオポリマーインキでにじまずクリアーな発色。●3点支持方式で、極小超硬ボールを装着。

■ハイテックC LH-20C3（0.3ミリボール／筆跡幅0.15mm）
■ハイテックC LH-20C4（0.4ミリボール／筆跡幅0.2mm）
インキ色：黒・赤・青・グリーン・ブラウン・ライトブルー・オレンジ・ピンク・バイオレット・イエロー・ブルーブラック・蛍光グリーン・蛍光ブラウン・蛍光ブルー・蛍光オレンジ・蛍光ピンク・蛍光レッド・蛍光バイオレット・蛍光イエロー
■ハイテック05 LH-20C5（0.5ミリボール／筆跡幅0.25mm）
インキ色：黒・赤・青・グリーン・ブルーブラック ■各1本200円〈税抜〉

ビッシリ書ける、ハッキリ読める。ハイテックC

HI-TEC-C

製造元：パイロットインキ㈱

定価560円

雑誌 23713-2/17 T1123713020567
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社